治罪法直譯

三百一條ヨリ
至六百五十條

6553

特ワ19
6553
番号

昭和八年十二月廿四日
鶴田乙丑

第三編　犯罪ノ裁判

普通ノ條規（ジスポジシヨンユニヴヨンス）

第三百一條　裁判ス可キ事件ノ目次（リスト）ハ其訴ヲ受タル裁判所書記局ニ登記ノ順序ニ從ヒ毎日ノ聽訟ノ為ヲ規定セラル可シ

然レ共裁判所長ハ未決ノ拘留ヲ短縮スルカ為メニハ職權ヲ以テシ重大ニシテ且證明セラレタル事件ノ為メニハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リテ其順序ヲ變更スルヲ得可シ

治罪法草案第三編

第三百二條　裁判法廳ニ出サレタル重罪輕罪及違警罪ノ事件ハ總テ公廷ニ於テ之ヲ審査（ミチ）辨論及裁判セラルヘシ

否サルトキハ言渡サレタル「コンダムナシヨン」（刑ノ言渡ノ義）ノ効ナカルヘシ

第三百三條　然レトモ若シ其被疑（ヒギ）事件ノ性質ニ因リ其辨論ノ公ケノ風儀ノ為メ危害アルヘキモノト見ユルトキハ裁判所ハ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ公衆ノ出席無クシテ辨論ヲ行フヘキヲ命令スルヲ得ヘシ但シ其裁判所ノ登簿代（アウヨウカアンスクリ）信人及其他辨論ノ為メ其出席ノ有益ナリト信スル諸人ハ此限ニ非ス

此場合ニ於テモ尚ホ裁判言渡シノ為メ及ヒ陪審（バイシン）判（ジ）ニ係ル事件ニ就テハ陪審官ノ評議書朗讀（ロウドク）ノ為メニハ訟廷ノ戸ヲ開クヘシ

裁判言渡ノミハ印刷ノ方法ニ因リ之ヲ出版（シユツパン）セラルヽヿヲ有ヘシ

第三百四條　何等ノ事件ニ於テモ（輕重罪ヲ論セサルノ義）被告人ハ拘留セラルヽト否トヲ論セス拘束ヲ免シ訟廷ニ出席スヘシ但シ拘留又ハ假釋

ヲ受タル者ハ守卒等ニ伴ハルヽヿ有ル可シ
同上ノ場合ニ於テモ若シ被告人現病若クハ定規ノ診断ヲ經タル疾病アルニ非スシテ訟廷ニ出ルヲ拒ミタル片ハ力ヲ以テ拘致セラルヽヿ有ル可ク又其辨護ヲ拒ミタル片ト雖モ其裁判言渡ハ對理ノ裁判ト看做サル可シ

第三百五條　若シ訟廷ニ於テ被告人力メテ暴行又ハ再三暴言シテ辨論ヲ妨碍セントスル片ハ裁判長ノ再度ノ告戒ノ後チ仍ホ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ為シタル言渡ニ因リ訟廷ヨリ逐セラルヽヿ有ル可シ又其拘留ヲ受タル者タル片ハ監倉ニ送致セラル可シ但シ辨論ノ續キ及ビ裁判言渡ニ於テハ妨害タルヿ無之ヲ對理シタルモノト看做サル可シ

若シ辨論一日以上引續ク可キ片ハ前項ノ處分ハ次日以後ノ為メニハ其効無カル可シ但シ再ヒ同上ノ所業アル場合ニ於テ更ラニ前項ノ處分アルハ格別トス

第三百六條　被告人若シ現病若クハ定規ノ診

断ヲ経タル疾病アルカ又ハ精神錯乱シタル
ヰハ其痊癒ニ至ルマテ辨論ヲ中止セラル可
シ
此場合ニ於テ辨論ヲ始メ而シテ其中止ノ被
告人ノ精神錯乱ニ基固セシヰハ全ク新タニ
辨論ヲ為ス可シ又其他ノ疾病ニ関スルヰハ
訴訟管係人ノ求メアルカ若クハ其中止ノ日数
引續キ三日以上ニ渉ルニ非レハ辨論ヲ新ニ
セサル可シ
若シ又其罪アリトスル事實及ヒ法律ノ適施

ニ付キ既ニ辨論結局シタル時疾病又ハ精神
錯乱ニ罹リタルヰハ裁判言渡ヲ為ス可シ
第三百七條　上訴ノ期限ハ被告人ノ疾病又ハ
精神錯乱中ハ被告人ノ為メ及ヒ之レニ對シ
テ中止セラル可シ
若シ軽罪又ハ違警罪ノ刑ノ言渡ニ関スルヰ
ハ痊癒ニ付キ定規ノ診断セラレタル後チ控
訴及ヒ上告期限ヲ経過セシムル為メ書記ヨ
リ其言渡書ヲ本人ニ送達ス可シ
若シ重罪ノ刑ノ言渡シニ関スルヰハ重罪裁

判所長又ハ所長ノ代任タラシムル所ノ裁判官書記ノ立會ニテ自カラ監倉ニ到リ其者ニ對シ言渡サレタル判決書（サンタンス）ヲ讀聞カセ且ツ之レニ上告ヲ為スカ為メ五日ノ（期限アル）ヲ告知ス可シ

第三百八條　力制セラル（コヽトヽ為ルハラフヲルス）ヿ有ル可カラサルカ故ニ規則ニ循ヒ呼出サレ又ハ告知セラレタル后チ辨論ノ為メノ定日ニ於テ自意以テ出席セサル所ノ総テノ被疑人（アンキエルベー）ハ次ノ章ニ言フ所ノ如ク輕罪ニ付テノ闕席（デホー）又ハ重罪ニ付テノ闕席（コンテユマス）裁判セラル可シ

一人又ハ數人ノ被疑人（アンキエルベー）又ハ被告（アンキエゼー）（重罪取調ヘ送ラレタル者ヲアキユゼートト云フ）ノ重輕罪ノ闕席裁判ハ同一ノ裁判書渡ニ因テ通常ノ規則ニ從ヒ現ニ出席スル所ノ被告人ヲ對理裁判スルノ妨ケトナル可カラス

第三百九條　裁判長ハ訟廷ノ取締ヲ為シ裁判所ノ尊重及ヒ其順序ヲ保スルカ為メ命令又ハ禁止ニ係ル一切ノ處分ヲ為ス可シ

傍聽人ハ帽ヲ脱シ且沈黙ス可シ総テノ躁擾（ソウジヨウ）

又ハ障碍総テノ稱賛又ハ誹謗ノ徴ハ直チニ
制止セラル可ク又其本人ハ訟廷ヨリ逐付セ
ラル可シ

第三百十條　若シ喧噪者數人ニシテ協議シタ
ル企テニ因テ之ヲ為シタルモノト見ユルカ
又ハ他ノ傍聽人ト區別シ難キトキハ裁判長ハ
辨論ノ継續ヲ害スルヿ無クシテ之ヲ訟廷ヨ
リ退散セシムルヲ得可シ

第三百十一條　若シ傍聽人中裁判官陪審檢察
官又ハ書記ニ對シテ不敬罵詈暴行又ハ其他
一切ノ違警罪又ハ軽罪ニ付テ罪ヲ得ル者ア
ルトキハ裁判長ノ書面ノ命令ニ依リ拘捕セラ
レ且ツ其犯人身分ノ何タルヲ論セズ檢察官
ノ論告ニ因テ之ヲ裁判スルガ為メ次順ノ訟
廷ニ送ラル可シ
犯罪及ヒ裁判長ヨリ命令セラレタル處分ノ
調書ヲ其場ニテ即時作ル可シ

第三百十二條　前条ノ場合ニ於テ違警罪裁判
官ハ控訴無キ違警罪ノ刑ヲ言渡シ控訴セラ
ルヽヿ有ル可キ軽罪ノ刑ヲ言渡ス可シ軽罪

裁判官及ヒ一層上級ノ法廳ハ控訴無キ軽罪ノ刑ヲ言渡スヿ可シ

第三百十三條　訟廷ニ犯サレ重罪トナラザル総テノ他ノ犯罪ハ其犯シタル者ノ何人タルヲ問ハズ檢察官ノ論決ノ上ニテ其場ニテ裁判セラルル可シ

違警罪ノ刑ハ其訟廷ヲ主持スル裁判官ノ何タルヲ問ハス控訴無キ所ノ言渡シヲ為サル可ク軽罪ノ刑ハ違警罪又ハ軽罪裁判官ナル片ハ控訴セラル、ヿアル可ク又一層高等ノ法廳ナルトキハ控訴無キ所ノ言渡シヲセラル可シ

第三百十四條　若シ訟廷ニ於テ犯シタル罪ノ一箇ノ重罪タル可キモノタル片ハ裁判長ハ書記ヲシテ其調書及ヒ證人ノ供述及ヒ被疑人ノ陳述ヲ調書ヲ記セシメ又裁判長ハ檢察官ノ意見ヲ聽タル后チ通常ノ規則ニ從ヒ紀問ヲ執行セラル、ガ為メ拘留狀ヲ発シテ其被疑人ヲ紀問裁判官ニ送付ス可シ

第三百十五條　前數條ニ記載シタル場合ヲ除

クノ外何レノ裁判所ト雖モ夫レガ為メ訴ヲ受タル事實ニ非レハ裁判スルヿヲ得ス

然レ𪜈辯論ニ因テ發覚セラレタル主タル犯罪ニ附帶ノ事實ハ若シ其通常ノ管轄内ニ入ルヿ可キモノタルヿハ之ヲ裁判スルヿヲ得可シ

但シ裁判所ニ於テ本訴ノ裁判ヲ中止シ而シテ其必要トスルヿハ其豫審ノ補充ヲ行ヒ又ハ之ヲ行ハシムル𪜈格別ナリトス

第三百十六條　軽罪又ハ違警罪ノ事件ニ於テハ辯論ノ間ニ於テ檢察官及ヒ被疑人ヨリ管轄違ヒノ申立及ヒ総テ公訴ノ受理ス可カラザル理由申呈スルヲ得可シ若シ又其既ニ大審院ニ於テ却下セラレタルモノタルヿハ職權以テ補ヒ行ハヽルヿヲ得可シ

民事原告人ハ管轄違ヒノ申立ノミニシテ且ツ唯第二百七十五條ニ記載シタル場合ノミニ非レハ言ヒ立ツルヿヲ得ズ

若シ其申立ノ採用セラルヽヿハ公訴ハ受理ス可カザルヿヲ宣告セラル可シ但シ控訴又ハ大審院ニ於ケル上告ハ此限ニ非ズ若シ又

其申立ノ却下セラルヽトキハ控訴又ハ大審院
ヘノ上告アルニ拘ハラズ

第三百十七條　若シ同上ノ申立ノ重罪裁判所
ニ申呈セラレタルトキハ辯論ハ常ニ陪審ノ申立
ヲ終ル迄繼續セラルル可シ但シ重罪裁判所ニ
於テハ此件ニ就キ未タ大審院ノ判決ヲ經サ
ルトキハ法律適施ノ為メ管轄違ヒタルヿヲ宣
告シ又ハ公訴受理ス可カラサルヿヲ宣告ス
ルハ此限ニ非ス

第三百十八條　若シ二箇ノ裁判所同一ノ事件
又ハ附帶ノ事件ニ付テ訴ヲ受ケ而シテ其管
轄違ヒノ申立ヲ為シ得サルトキハ檢察官ソノ
他訴訟管係人ノ各人ハ何時ニテモ別段ノ論
決書ニ曰テ管轄法廳ニ於テ其管轄裁判官ヲ
定ムルマテ其審査及ヒ裁判ヲ中止セラレン
ヿヲ求ムルヲ得可シ
裁判所ハ其判權抵觸ノ調査及ヒ檢察官ノ意
見ヲ聽キタル後チ其中止ヲ拒ムヲ得可シ但
シ訴訟管係人ヨリ管轄裁判官ヲ定ムル為メ
ノ訴ヲ為スヿハ此限リニ非ス又職權ヲ以テ

其中止ヲ認可スル得可シ此場合ニ於テハ其訴訟管係人ヨリ管轄裁判官ヲ定ムルノ願ヒヲ為スヲ可キ期限ヲ定ム可シ若シ之レ無キ片ハ再ヒ辨論ヲ始ム可シ

第三百十九條　同一ノ軽罪裁判所ニ属スル二箇ノ違警裁判所ノ間ニ係ル管轄定メノ訴ハ之ヲ其軽罪裁判所ニ出ス可シ

若シ二箇ノ裁判官同一ノ裁判所ニ属セザルカ又ハ違警裁判官ト軽罪裁判所ノ間ニ判權抵觸ノ起リタル片ハ其訴ハ之ヲ控訴裁判所ニ出ス可シ

若シ判權抵觸スル所ノ二箇ノ裁判官同一ノ控訴裁判所ニ属セザル片ハ其訴ハ之ヲ大審院ニ出ス可シ

第三百二十條　若シ其判權抵觸ノ二箇ノ軽罪裁判所ノ間ニ起リタル片ハ同一ノ管轄順序ニ從フ可シ

第三百二十一條　若シ二箇ノ控訴裁判所ノ間ニ判權抵觸ノ起ルカ或ハ抵訴裁判所ト其下級ノ裁判所ト間ニ起ル片ハ其訴ハ常ニ第四

篇第三章ニ從ヒ之ヲ大審院ニ差出ス可シ

軍事裁判所ト通常裁判所トノ間ニ判權抵觸ノ起リタルキ亦其管轄ヲ定ムルヿハ之ヲ大審院ニ訴フ可シ

第三百二十二條　管轄定メノ訴ハ願書ノ方式ニテ中止ヲ願フタル裁判所ノ書記局ヲ經由シテ差出ス可シ其訴ハ趣意書ノ正本二通ヲ添ヘ差出サル可シ

正本ノ一ハ書記ヨリ三日間ニ答辯ヲ為ス可キ告知ヲ付シ之ヲ其答辯ス可キ對手人ニ送達ス可シ

此期限ノ終リニ於テ其訴ニ趣意書ヲ添ヘ前數条ニ從ヒ管轄ノ法廳ニ送達ス可シ又檢察官原告ニモ非ス又被告ニモ非ル片ハ之ニ其意見ヲ付ス可シ

檢察官ハ同時ニ其訴ヲ受タル他ノ裁判所々屬ノ檢察官ニ於テ管轄定メノ訴アリタルヿヲ通知ス可シ但シ該裁判所ハ裁判ヲ中止シ又ハ繼續スルヿヲ得可シ

第三百二十三條　管轄定メノ訴ヲ受タル裁判

所ハ其訴ニ管スル書類檢閲ノ為メ短ナル期限内ニ會議局ニ集會ス可シ檢察官ハ其意見ヲ聽カル可シ

若シ判權抵觸ノ證アリト見ヘサル片ハ其訴ハ其理由ヲ付シタル決議ニ因テ却下セラレ其決議ハ檢察官ヨリ判權抵觸ノ起リタル裁判所ニ送致セラル可シ

若シ判權抵觸ノ証アリト見ユル片ハ裁判所ハ其起リタル二箇ノ訴訟ノ書類共ニ檢察官ノ意見及ヒ訴訟管係人ヨリ未タ之ヲ差出ササル片ハ其意見書ヲ添ヘ差出ス可キ旨ヲ命令ス可シ冒頭此命令ノ送達アル片ハ當然直チニ二箇ノ訴訟ヲ中止ス可シ

第三百二十四條　前条第三項ニ記スル所ノ意見書及ヒ趣意書ハ其訴訟管係人ヘ送達セラルタル日ヨリ三日間ニ各載判所ノ書記局ニ差出ス可シ書記ハ即時其一切ノ書類ヲ管轄定メノ訴ヲ受ケタル裁判所又ハ控訴院ニ送致ス可シ

第三百二十五條　管轄定メノ訴ハ裁判官ノ陳

示及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽タル上公ケノ訟廷
ニ於テ判決セラル可シ

第三百二十六條　判權抵觸ノ存在スルヿヲ認
メラレタルトキハ裁判所ハ第一編普通ノ条規
ニ於テ定メタル撰定ノ原因ニ從ヒ其侭訴ヲ
受ク可キ法廳ヲ指定ス可シ
之ニ反スル場合ニ於テハ其訴ハ却下セラレ
而シテ其各種ノ裁判所ハ其訴ヲ受タル侭ナ
可シ

右二箇ノ場合ニ於テハ檢察官ハ其決定ノ寫
書ヲ其訴ニ管係スル諸裁判所ニ送達ス可シ
本訴管係人ハ掛リ裁判所書記局ノ通知ニ因
テ告知セラル可シ

第三百二十七條　管轄定メノ訴ハ前条ニ定ム
ル所ノ通知ヨリ三日間ニ於テ第二百二十三
条第三項ニ從ヒ答辯書ヲ差出ス可キノ督促
ヲ受ケサル訴訟管係人ヨリ故障ヲ受クルヿ
有ル可
故障ハ其之ヲ為ス可キ裁判所ノ書記局ニ差
出サル可シ

故障ノ申述書ハ之ニ答辯ス可キ者ニ通知セラレ而シテ其通知ノ後チ三日間ニ調フ可キ所ノ双方ノ答辯書ト共ニ之ヲ其裁判ス可キ裁判所ニ送達ス可シ

第三百二十八條　何レノ場合ニ於テモ管轄定メノ訴ハ控訴セラルヽ可カラス

管轄定メノ判決ニ對シ故障アラサル片ハ第三百二十六条ニ定ムル所ノ通知ヨリ又故障アリタル片ハ其故障ニ付キ決定アリタル日ヨリ三日内ニ上告スル丁ヲ得可シ

上訴ノ期限内及ヒ為サレタル上訴ハ中止ス可キ執行ヲモノトス

第三百二十九條　管轄定メノ判決ノ後チ其訴ヲ受タル侭ナル一箇又ハ數箇ノ裁判所ノ先キニ始メタル手続ヲ其中止シタルヨリ後ノ手続ヲ続キ行フ可シ

然レ共陪審ヲ要スル事件ニ関スル片其中止ノ三日以上ニ渉リタルニ於テハ其手続ハ全ク新タニ始メラル可シ

何レノ場合ニ於テモ其訴ノ撿察官又ハ判權

抵觸アルヿヲ見定メタル訴訟管係人ヨリ為サレタル片ハ其手続キハ新タニ始メラル可シ

裁判所ハ常ニ職權以テ本訴ノ職訟ヲ新タニ始ム可キ旨ヲ命令シ得可シ

第三百三十條　違警裁判官輕罪又ハ控訴裁判所及重罪裁判所及ヒ以上法廳ノ書記ハ第二百六十四條ニ記スル所ノ原由ニ因リ檢察官被疑人民事上管係人ヨリ忌避セラル、ヿアル可シ

其他裁判ニ任セラレタル裁判官ニシテ（既ニ）其紀問裁判官又ハ始審裁判官トシテ其事件ヲ知リタル片ハ第五十五条ニ願ヒ忌避セラル可シ

第三百三十一條　忌避ヲ為スヿハ本訴ノ審査及ヒ其他ノ申立（エキセフシヨン）又ハ公訴又ハ私訴ノ辯避（ディフェンス）ノ申立アル以前ニ申呈ス可シ

然レ共忌避ノ原由辯論ノ間ニ起リタル片ハ其裁判言渡シノ非ル限リハ忌避ノ申立ヲ受容セラル可シ冒頭前条第二項ニ記スル所ノ

忌避亦之ニ同シトス

忌避ノ願ハ辯論ヲ中止スヲ可キモノトス

第三百三十二條　本訴ノ裁判官及ヒ書記ニ對スル忌避ハ紀問裁判官ニ對スルモノト同一ノ法式ニテ願出サレ且裁判セラル可シ

第三百六十五条第二百六十六条及第二百六十八条乃至第百七十一条ヲ適用セラル可シ

第三百三十三條　若シ違警罪判官ノ忌避ノ認可セラレタルトキハ其補員ヲ以テ代ラシム可シ補員差支タル場合ニ於テハ其事件ハ最近隣ノ違警裁判官ニ差出サル可シ

軽罪又ハ控訴裁判官ノ一人又ハ數人ノ忌避アルトキハ同裁判所ノ他ノ裁判官ヲシテ之ニ代ラシム可シ

書記本官又ハ其補員ノ忌避セラルヽトキハ同書記局ノ補員又其差支アルトキハ裁判官補員ヲシテ之ニ代ラシム

第三百三十四條　第三百二十九條ノ條規ハ忌避ニ因ツテ中止セラレタル訴訟手續ニ再ヒ取掛ルニ付テモ適用セラル可シ

法學部藏書

變災厄難ノ原因ニ因テ訴訟ノ手續キヲ中止シタル他ノ總テノ場合ノ為メニモ又之レニ同シ但シ法律ニ別段ノ制規アルトキハ此限リニ非ス

第三百三十五條　紀問裁判官ノ面前ニテ訴用セラレタル罪責ヲ負ハシメ（被告人ニ）又ハ罪責ヲ免レシメントスル一切ノ証據ハ裁判ノ法廳ニ於テモ亦等シク許用セラル可シ

第三百三十六條　若シ犯罪ノ既ニ豫審ノ目的タリシモノタルトキ其豫審中管轄ノ官吏ニ因テ法式ニ從ヒ記載セラレタル調書及其他ノ檢證書（アクトドコンスタタシヨン）ハ訴訟管係人中一人ノ請求ニ依リ又ハ裁判長其讀上ヲ以テ裁判所ノ為メニ事實ヲ明白ナラシムルニ益アリト察スルトキハ職権ヲ以テ書記ニ問讀セシム可シ

前項ノ調書ニ記スル所ノ總テノ陳述ハ官吏ノ自カラ見聞セシ所ノ事實ヲ記シタルトキト雖モ其罪責ヲ負ハシメ又ハ之ヲ免レシムルカ為メニモ證人ノ證據ノ力ヲ有スルニ過キス而シテ一切ノ反証（ブルーヴコントレール）ニ因テ之ヲ攻擊スルノ

得可シ

該調書ヲ記シタル官吏ハ何時ニテモ検察官民事原告人被疑人ヨリ呼出サシメラレ又ハ裁判所ノ職権ヲ以テ呼出サレル丁有ル可シ

紀問裁判官ハ裁判所ノ職権又ハ其許可ヲ以テシ且唯其調書ノ意義説明ヲ與フルカ為メニ非レハ呼出サル丶丁有可カラス

第三百三十七條　豫審ニ訊問セラレタル證人ハ同様ニ訊問セラルヽカ為メ更ラニ呼出サシメラレ又ハ呼出サル丶丁アル可シ

訴訟管係人ノ各人モ亦證人ノ呼出サレサルカ又ハ法式ノ如ク呼出ヲ受ケテ出席セサルカ若シ又其出席シタルモ二箇(前後)ノ供述照合セシムルカ為メ必益アリト見ユルトキハ豫審ニ於テ筆記セラレタル供述ノ朗讀ヲ求ムル丁ヲ得可シ

裁判長ハ職権ヲ以テ右ノ朗讀ヲ命令スルヲ得可シ

第三百三十八條　訟廷ニ呼出サレタル證人ハ第百九十四條乃至第二百六條ニ制定シタル

法式ト條件ニ循フテ供述ス可シ

第三百三十九條　呼出サレタル證人ハ供述セサル限リハ證人等ノ問ニ相通接シ及ヒ雜論ニ立會フヿヲ得ス

證人ハ之ヲ呼出サシメタル者ヨリ差出タル目録ノ順席ニ循ヒ訊問セラル可シ

然レ𪜈裁判官又ハ裁判長ハ証人ヲ呼出サシメタル者ノ意見ヲ聽キタル后チ實情ヲ得ルニ益アル順序ニ變更スルヿヲ得可シ

第三百四十條　證人及被疑人ハ裁判長又ハ其他ノ裁判官及ヒ政府ノ目代ニ非レハ訊問スルヿヲ得ス但シ他ノ裁判官及ヒ政府ノ目代ハ裁判長ニ叢言ヲ請フタル后チニ訊問ス可シ

本訴ノ管係人ハ證人ニ於テ雜論ヲ分明ナラシムルニ有益ト信スル問題ヲ出サンヿヲ裁判長ニ請フヿヲ得可シ

訟廷ニ於テ証人ノ為シタル供述ハ書記之ヲ簡畧ニ收録ス可シ

第三百四十一條　若シ證人又ハ被疑人國語ヲ談

セス又ハ解セサルカ又ハ其聾唖ナルトキハ一個ノ通譯人ニ付與スヲ可シ而シテ第百七十一條第百七十二條及第二百四條ニ於テ豫審ノ時ノ同一ノ場合ノ為メニ記スル所ノ如ク執行フヲ可シ

第三百四十二條　若シ一個ノ訟人ノ供述ノ偽言ニシテ悪意ニ出タルモノト見ユルトキハ裁判所ハ訴訟管係人ノ請求ニ依リ又ハ職権ヲ以テ其證人ノ拿捕及ヒ若シ之ヲ要スルトキハ其偽證ノ為メ處分セラルヘキ為メ勾引状ニ依リ紀問裁判官ヘノ送致ヲ命スルヲ得可シ

此場合ニ於テハ證人ノ供述ハ第二百六條及ヒ第二百七條ニ定メタル法式ニ循ヒ書記ニ因テ其場ニテ記載セラレ且紀問裁判官ニ送致セラルヘシ

裁判所ハ同一ノ場合ニ於テ訴訟管係人ノ請求ニ依リ又ハ職権ヲ以テ其事件ヲ他(日)ノ訟廷ニ讓リ若シ又其重罪事件ニ関スルトキハ他ノ陪審ニ廷ヘ送ルヲ得可シ

第三百四十三條　規則ニ循ヒ呼出サレ其姓名
呼立ノ時出席セズ且裁判所ニ於テ其宥恕ヲ
得可キ正當ノ支由ノ證明スルニ至ラサル所
ノ證人ハ検察官ノ決案ノ上其場ニテ呼出ノ
費用及ヒ左ノ罰金ノ言渡サル可シ
違警罪支件ニ付テハ五十錢以上壹圓九十五
錢以下
軽罪支件ノ付テハ二圓以上十圓以下重罪支
件ニ付テハ五圓以上二十圓以下
被疑人又ハ被告人ヨリ其罪責ヲ免レシムル

治罪法草案審査局

カ為メ呼出サレ出席セサル證人ニ對シテハ
其被疑人又ハ被告人自カラ欠席セシ件ハ呼
出ノ費用及ヒ罰金ヲ言渡ス可カラス
第三百四十四條　前條ノ記シタル言渡ハ故障
及控訴ヲ受ク可カラス
然レ𪜈證人書記ヨリ其言渡ノ通知ヲ受クル
ヨリ三日内ニ於テ證據ヲ以テ宥恕セラル可
キ正當ノ支由ナルヿヲ裁判所ニ證明シタル
時ハ裁判所ハ其罰金ノ全部又ハ一部ヲ免ス
ルヿヲ得可シ

治罪法草案審査局

重罪吏件ニ付クハ重罪裁判所ハ其開廷ノ後
チニ於テハ罰金ノ減免ヲ為スヿヲ得ス

第三百四十五條　前二條ニ記シタル場合ニ於
テハ出席セサル證人ノ呼出ノ為メタル許
訟管係人ハ裁判所ニ於テ其吏件ノ
指定シタル後日ニ延ベ送リ且其日ニ證人ノ
再ヒ呼出サンヿヲ請求スルヲ得可シ
若シ此請求ノ檢察官ヨリ出サルトキハ該官ハ
其延期ニ付キ意見ヲ與フ可シ
又裁判所ハ職權ヲ以テ延期及再呼出ヲ命ス
ルヲ得可シ

第三百四十六條　若シ斯クノ如ク再呼出シヲ
受タル證人尚ホ出席セサルトキハ檢察官ノ論
求ノ上ニテ前ニ（第三百四十三條）定メタル罰
金ノ「マキシモーム」求多數及再呼出シノ費用ヲ
言渡サル可シ
若シ違警罪吏件ニ関スルトキハ其吏件ノ裁判
ハ延期セラル可カラズ
若シ軽罪吏件ニ関スルトキハ裁判所ハ直チニ
裁判シ若クハ更ラニ中止スルヿヲ得可シ然

ヽ此場合ニ於テハ其證人ニ對シテ拘引狀
ヲ發スル可シ
若シ斯ノ如ク強制セラレタル證人ニシテ供
述ヲ拒シタルトキハ（先キニ）科シタル罰金ノ多
數ノ二倍ヲ言渡サル可シ
第三百四十七條　裁判所ヨリ命セラレタル監
定又ニシテ宥恕ヲ得可キ正當ノ事由ナク其
申報書ヲ差出サヽルモノハ第二百十條ニ記ス
ル所ノ刑ヲ言渡サル可シ若シ唯豫審ノ為メ
或ハ裁判所ノ需メニ因テ為シタル申報書ノ

確認人數ノ行ノ為メニ為サレタル呼出シニ應
セサルノミナルトキハ訟廷ニ出席セサル証人
ト同樣ニ處分セラル可シ
其他以上ノ第三百三十七條乃至第三百四十
六條ノ條規ハ前述ノ條中ニ記シタル場合ニ
當ル監定人ニ適用セラル可シ
第三百四十八條　監定人ノ申報書ハ訴訟書類
ニ添エ且ツ裁判長及ヒ書記ニ依テ檢認セラ
ル可シ又其口述ノ意見ハ証人ノ供述ノ如ク
畧記セラル可シ

第三百四十九條　若シ數個ノ被疑人又ハ數個ノ被告人アルトキハ之ニ關スル各個ノ雜論ニ從ハシメ及之ニ對シテ證據ヲ差出スノ順序ハ裁判長ヨリ本訴ノ管係人ニ於テ其意見ヲ告知シ且ツ其適當ト認ムル所ノ彼等（訴訟官係人ヲ指ス）ノ說ヲ採リテ指定セラル可シ

裁判長ハ實情（ソエリテ）發見ノ爲メ必要ナリト信スルトキハ常ニ其順序ノ全部又ハ一部ヲ變更スルヲ得可シ

第三百五十條　檢察官民吏原告人被疑人又ハ其辯護者及ヒ民吏上ノ責ヲ負フ可キ請人ハ順次ニ發言ス可シ

何人ト雖モ訴（ドバリ）ノ間ニ於テ訴訟管係人ヲ妨碍スルヿヲ得ス

訴訟管係人ノ各人ハ（互ニ）討論スルヲ得但シ被疑人又ハ辯護者ハ常ニ最後ニ發言ス可シ

第三百五十一條　檢察官公訴ヲ抛棄ハ裁判所ヲシテ其訴ヲ却ケシメズ常ニ其本訴ハ裁決ス可シ

第三百五十二條　若シ辯論中訴訟手續ニ付キ

異議ヲ生スルトキハ裁判所ハ検察官ノ意見ヲ聴タル上其附起ノ支件ヲ裁決スヘシ

附起ノ支件ノ裁判言渡ニ對スル控訴及ヒ上告ハ本訴ノ裁判言渡シノ後ニ非レハ為スヿヲ得ス

裁判長ハ訴訟ノ手續キニ對シテ為スヘキモノト信スル所ノ一切ノ異論及「シゼルウ」ヲ期シテ申立ヘキ権利ノ保存ヲ云ヘキ付キ訴訟官係人ヨリ之ヲ請求スルキハ其證書ヲ與フヘシ

第三百五十三條　民支上責ヲ負フヘキ諸人ハ自分及被疑人ノ利益ノ為メニハ何時ニテモ即チ上訴中ト雖モ之ニ參與スルヿヲ得ヘシ

又同上ノ諸人ハ其參與スヘキ裁判ノ言渡ヲ以テ此者ニ對シ（他日）抵抗シ得ヘキモノタラシムルガ為メ民支原告人ヨリ本訴ニ呼出サルヽヿ有ルヘシ

若シ本訴ニ參與又ハ本訴ニ加ハルニ付キ異議アルトキハ裁判所ハ其附起ノ支件ヲ裁決スヘシ

第三百五十四條　裁判所刑事ノ言渡ヲ為ストキハ成

可キ丈ケ吏實ト法律トヲ別チテ之ヲ理解ス
可シ
被疑人ノ責トシテ看認メタレタル吏實ハ法
律ニ定メタル所ノ如ク其構罪ノ性質ヲ名狀
ス可シ
又裁判官ノ必ス証ノ定メタル所ノ證據ノ性質
ヲ記錄ス可シ
然レモ重罪裁判所ノ判決書ニ関スルトキハ証
據ヨリ發出シタル理由ハ唯陪審申立ノ記錄
ニ止ル可シ

適用セラレタル刑法ヲ正條ハ訟廷ニ於テ朗
讀セラレ且ツ言渡書ノ正本ニハ其全文ヲ記
載ス可シ
第三百五十五條　無罪ノ言渡書ニハ事實
又ヒ法律ノ理由トシテ其犯罪ハ被疑人ノ罪
責アリト證セラレサルヿ又其重罪ニ関スル
ヿハ被告人陪審ニ依テ無罪ト申立ヲシタル
ヿヲ記錄ス可シ
第三百五十六條　被疑人左ノ場合ニ於テハ其
訴ヲ免セラル可シ但シ其説明ハ裁判言渡シ

ノ理由ヲ用ヒタル可シ

第一 訴ヘラレタル夷實ノ法律ニテ罰セラレタルトキ

第二 公訴ニ對シテ期滿免除アルトキ

第三 其犯罪ノ既ニ裁判ヲ終タルトキ

第四 其夷實ノ大赦（アムニスチー）ヲ受クルトキ

第五 被疑人法律ニ定メタル全ク赦宥（エキスキユーズアブリエトウル）ノ場合ノ一ニ當ルトキ

以上何レノ場合ニ於テモ豫審ノ間ニ大審院ヨリ是等ノ申立ヲ却下セラレサルヿヲ必要トス

第五百五十七條 公訴ヲ判決スル所ノ裁判渡ニ依リ裁判所ハ同時ニ害ヲ被リタリト申立ル者ノ民夷ノ訴及ヒ被疑人要償ノ訴ヲ判決ス可シ

然レ𪜈裁判所ハ雙方ニテ申立ル所ノ才害ニ付キ一層先全ノ取調ヲ必要トスルトキハ其判決ヲ申立スルヿヲ得可シ

第三百五十八條 被疑人木訴ニ付キ刑ノ言渡ヲ受タルトキハ裁判所ハ又職權ヲ以テ檢察官

ニ用ヒラレ又ハ民事原告人ヨリ立替タル裁判入費ヲ（償ヲ可キ）言渡ス可シ

若シ被疑人唯訴訟ノ或ル件ニ付テノミ刑ノ言渡シヲ受クル ベキハ裁判所ハ其刑ノ言渡ヲ受クル吏件ニ関スル費用ノミノ外擔當セシメサルヲ得可シ

無罪ノ言渡ノ場合又ハ免訴ノ場合ニ於テハ公訴ハ費用ハ官庫及民吏原告人各其費用ニタル所ノモノヲ擔當ス可シ

損害ノ償ノ類（アヤマリヲシタルヒトニ）要求ノ訴及民吏賠償ノ訴訟入費ニ付テハ其敗訴者民吏訴訟（アヤマリヲシタルヒト）ノ規則ニ循ヒ責用（擔當ノ）ヲ言渡サル可シ

第三百五十九條　被疑人ノ有ニ属セサル物件押收セラレ而シテ其没收ス可キ物件ニ非ル場合ニ於テハ裁判所ハ無罪ノ言渡ノ場合ト雖モ假令請求セサルモ異議アラサル所有者ニ之ヲ返還スルヿヲ命ス

第二百六十條　故障控訴又ハ上告ヲ以テスル上訴ハ第一百九十七條ニ言フ所ノ如ク本人自カラ又ハ其代人ヨリ為スヿヲ得可シ

刑ノ言渡ヲ受クル者ノ雇護者モ亦別段ノ委任状無ク上訴ヲ為スヿヲ得可シ

然レ𪜈禁錮以上ノ刑ノ言渡シヲ受クル者裁判言渡ノ前又ハ其後ニ逃亡シタル𪜈ハ勾囚セラレサル限リハ検察官ノ外其利益ノ為メ一モ上訴ノ為スヿヲ得ス

第三百六十一條　勾留ヲ受タル者ノ上訴ハ監獄長ニ受取ラレ監獄長ヨリ直チニ之ヲ其別決ノ攻撃セラルヽ所ノ裁判所ノ書記ニ送達セラル可シ

其上ハ通常ノ法式ニ循ヒ執扱ハル可シ

若シ右ノ者上訴中假釋ヲ願ハヽト欲スル𪜈ハ其願ハ判決ノ攻撃セラルヽ所ヲ裁判所ニ之ヲ為ス可シ

第二百三十條以下ハ此場合ニ適用セラル可シ

第三百六十二條　若シ故障人控訴ノ後レテ為サレタル𪜈ハ書記ハ其訴フル者ニ於テ其権利ヲ（既ニ）失フタルヿヲ告知ス可シ

其上訴ノ固執スル𪜈ハ書記ハ通常ノ法式ニ

循ヒ其中立ヲ受サル可カラズ但シ之ニ其告知ヲ為シタルヿヲ附記（中立書ニ）ス可シ

第三百六十三條　刑ノ言渡ヲ受タル者ハ本人ニ於テモ其代人ニ於テモ一モ過失無シテ非常ノ變災厄難ニ因テ生シタル出訴ノ妨碍タルヿヲ本人ノ為メ又ハ其代人ノ為メニ証明スル件ハ各種ノ上訴ノ為メ定メタル期限ノ畢リタルヨリ主セシ失権ヲ回復スルヿヲ得此場合ニ於テハ其妨碍ノ止ミタルヨリシテ法定ヲ期限内ニ於テ理由ヲ附シタル願書ニ其証據ヲ添ヘ上訴ス可シ

檢察官モ亦同一ノ権利ヲ有ス

民事訴訟管係人ハ民法ニテ許可スル場合ニシテ其條件ヲ具備スルニ非レハ其失権ヲ回復スルヿヲ得ス

第三百六十四條　前二條ニ定ムル所ノ場合ニ於テ遅延シタル上訴ノ被告人ハ其通知ヲ為サレタル日ヨリ答辯書ヲ以テ之ヲ答辯スルカ為メ三日間ノ期限ヲ有ス可シ

該事件ハ其上訴ノ受理ス可キヤ否ヤヲ短ートー

ル期限内ニ於テ検察官ノ意見ヲ聽タル上會議ニ於テ豫メ判決セラルヽカ為メ上訴法廳ニ差出サル可シ

若シ上訴ノ阿認セラレタルトキハ訴訟管係人ハ書記ヨリ職権ヲ以テ之ヲ通知セラル可シ

而シテ通常ノ法式ニ循ヒ記簿ノ順序ヲ從ヒ本訴ノ裁判ヲ為ス可シ

若シ上訴ヲ可認セラレサルトキハ攻擊セラルタル裁判言渡ハ他ノ原由ニ因テ中止セラレサルニ於テハ執行セラル可シ

其他何レノ場合ニ於テモ裁判所ハ或ハ訴訟管係人ノ請求ニ依リ或ハ職権ヲ以テ遲延シテ為サレタル上訴ノ受理ス可カラサル旨ノ言渡シヲ為スヲ得可シ

第三百六十五条　違警罪裁判所又ハ軽罪裁判所ノ裁判言渡ハ對理又ハ欠席始審又ハ終審裁判タルヿヲ記録ス可シ但其訴訟管係人ノ為メ故障又ハ控訴ヲ為スノ権利又ハ此上訴ニ付異議申立ノ権利ノ妨碍タルヿナカル可シ

然レ共若シ其裁判言渡シノ對理或ハ終審タルヿヲ名ヽ狀セラレタルキハ故障又ハ控訴ハ執行ヲ（裁判言渡ノ）中止ス可キモノニ非ス但シ其名狀ヲ爭議スル所ノ故障又ハ控訴ヲ為ス者短ナル期限内ニ於テ其本訴審査（エキザマン）ノ前裁判言渡ノ名ヽ狀及其上訴ノ受理ス可キヿニ付裁決ヲ求ムルハ此限リニ非ストス

若シ又其裁判ノ欠席又ハ始審トシテ名狀セラレタルキハ其執行ハ故障若クハ控訴又ハ上ニ記スル所ノ上訴ノ期限ニ回テ中止セラル可シ但シ其對手人ハ短ナル期限内ニ於テ裁判言渡ノ名狀及ヒ訴上訴ノ受理ス可カラサルヿニ付キ裁決ヲ求ムルハ此限リニ非ス」

前二条ハ此場合ニ適用セラル可シ

第三百六十六条　裁判言渡シハ公廷ニ於テ言渡サルヽヤ否ナ直チニ本訴管係人ノ為メ又ハ之ニ對シテ得（アキー）ラレタルモノトス

上訴ナルキハ格別トス

若シ裁判言渡昏ノ正本其言渡ノ前裁判所ニテ記載セラレサルキハ各記訟廷ニ於テ即時

之ヲ記シ或ハ言渡後二十四時内ニ昏記局ニ
ニ記載スヘシ
裁判長及昏記ハ同上ノ期限内ニ正本ニ署名
スヘシ
昏記ハ何レノ場合ニ於テモ正本ニ出席シタ
ル裁判官若シ陪審アルトキハ其陪審検察官吏及
昏記ノ姓名又其言渡シノ場所ト日付ヲ記載
スヘシ
第三百六十七条　訴訟関係人ハ常ニ自費ヲ以
テ昏記ニ裁判言渡昏ノ写本又ハ抄録(エキストラクト)昏ヲ請フ

ヲ得ヘシ但シ該写本及抄録昏ハ其裁判ノ
未タ上訴セラルヘキモノタルトキハ其請求ヨ
リ二十四時内ニ交付セラルヽヲ要ス
第三百六十八条　對理裁判ノ言渡ノ場合ニ於
テ裁判長ハ前述ノ権及ヒ控訴上告ノ権及ヒ
此上訴ヲ為シ得ヘキ期限ヲ告知スヘシ
欠席裁判ノ言渡ノ場合ニ於テハ故障ヲ為ス
期限ヲ経過セシムル所ノ告知昏ニ前述ノ上
訴ノ権及ヒ其期限ノ記録スヘシ
若シ前述ノ記録ヲ遺忘セシトキハ故障ヲ為ス

ノ期限ハ規則ニ循ヒ其遺忘ノ補正セラルヽマデ中止セラルヽ可シ

第三百六十九条　昏記ノ記シタル正本中ノ錯誤又ハ遺忘ノ裁判長署名ノ後ナニシテ訴訟管係人ヘ一モ写本ヲ交付セザル前ニ発見セラレタルトキハ裁判長及ヒ昏記ノ署名及ヒ日附ヲ記シタル別段ノ伸明昏ヲ以テ正本ノ紙尾ニ之ヲ改正（レクチフエ）ヒテルヽヲ得可シ

第三百七十条　昏記ハ各支件ノ為メノ各別ノ裁判（カサエドージヤンス）始末昏ニ於テ弁述（プロセジユル）ノ訴訟手続ヲ成ス所ノ一切ノ支実及特ニ左ノ条件ヲ簡約ニ記載ス可シ

第一　訟廷ノ公ケナリシヿ及ヒ傍聴禁止ヲ命シタル理由ト其裁判言渡シノ公ケタリシヿ

第二　弁論ヲ始ムルノ前且供述ヲ為ス迫證人ノ退席（レトレー）シタルヿ

第三　被疑人ノ訊問及其答弁ノ主要タルモノ

第四　証人及ヒ監定人ノ宣誓シタルヿ又ハ

其宣誓セサリシ原由及ヒ其主要ノ伸明

（供述）

第五　被告人ノ害トナリ又ハ其利益トナル可キ證拠差出シノ

第六　訟廷ニ於テ附起ノ支件異議アレヒウ

（解説第五十二条ニアリ）又附起ノ支件ヨリ生シタル兼服及ヒ訴訟管係人ノ論決及ヒ同支ニ関スル裁判所ノ決定

第七　訴答ヲ為シタル順序及ヒ最終ニ発言スルニ付キ被疑人ヘ委任セラレタル権利

ノ

第八　裁判言渡及ヒ其正本ノ裁判所ニ依テ記載セラレ又ハ書記ノ記載ニ委子タル

第九　法律ニ制定スル所ノ無効ヲ来ス可キ（若シ之ヲ欠ク時ハ）法式ヲ履行シタル

第三百七十一条　裁判始末書ニハ何レノ場合ニ於テモ訟廷ノ場所及ヒ其日附裁判長タル裁判官及ヒ其立会裁判官若シハ陪審アル片ハ其名出席シタル検察官吏及書記ノ名ヲ附

記ス可シ

若シ同事件ニ付キ聽訟数日ニ渉リタルトキハ其度又其聽訟毎トニ同裁判官又ハ同陪審官ノ出席セシムルヲ附記ス可シ

若シ後チニ第四百五十九条ニ循ヒ補欠裁判官又ハ補欠陪審ノ一人ヲ呼出シタルヿアルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

検察官吏及ヒ書記ハ弁述ノ訴訟手続中ニ代ハルヿヲ得但シ其旨ヲ附記ス可シ

第三百七十二条　裁判始末書ハ裁判言渡後三日内ニ書記及ヒ裁判長ニ依リ総結及署名セラル可シ

裁判長ハ豫メ其確正タルヿヲ検シ若シ其異議アル場合ニ於テハ紙尾ニ其意見ヲ附言ス可シ

若シ裁判始末書ヲ明詳ナラズ且ツ解読シ難キトキハ書記ハ訟廷ニ作リタル正本ニ附加セラルヽカ為メ自分一己ノ署名ヲ以テ明正ナル写本ヲ作ルヲ得可シ

第三百七十三条　裁判始末書ニ載セラルヽ之ニ

分キ裁判長ノ異議アラサル信實（サンセリテー）ノ又ハ正
本ニ載セタル記録ノ信實タルヿハ偽造（フォー）ノ訴
ニ依ルニ非レハ異議スルヿヲ得ス
然レトモ書記若シ無効ノ来スヿ可キ法式ヲ履行
セシヿノ記録ヲ遺忘シタル時ハ其履行ノ證
拠ハ其無効ニ分キ起リタル上訴ノ場合ニ於
テハ其弁論ニ臨合シタル裁判官全員ノ一致
ノ伸明（デクララシヨン）及ヒ其署名ニ依リテ之ヲ為スヿヲ得
可シ
若シ裁判官一名ノミヲ以テ組立ラレタル裁

判所ニ関スル時ハ裁判官及検察官ノ一致シ
タル伸明ヲ為ス可シ
裁判始末書又ハ裁判言渡書ノ正本ニ於テ他
一切ノ無意ノ錯誤アル時ハ之ヲ同上ノ改正（レクチツ）
方法（テー）ヲ行ハル可シ
第三百七十四条　左ノ場合ニ於テ懈怠アル書
記ハ違警罪支件ニ分テハ二圓以上五圓以下
軽罪支件ニ分テハ三圓以上十圓以下重罪支
件ニ分テハ五圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言
渡サル可シ

第一　裁判言渡ノ後ヲ二十四時内ニ裁判言渡書ノ正本ヲ記載シ又ハ之ニ署名スルヿヲ怠リタル片

第二　第三百六十七条ニ定メタル場合ニ於テ請求ヨリ二十四時内ニ裁判言渡書ヲ爲本又ハ摘撮書ヲ発付セサル片

第三　三日内ニ裁判始末書ノ句ヲ結ヒ及ヒ之ニ署名スルヿヲ怠タル片

第四　前条ニ循ヒ改正ヲ要ス可キ支件ノ怠リノ一アル片

法律ニ定メタル期限内ニ於テ正本及ヒ裁判始末書ニ裁判長其署名ヲ欠ク片ハ之ニ對シテ懲戒規律ノ罰ヲ科セラルヿアル可シ

第三百七十五条　裁判言渡書ノ正本ハ之ヲ言渡シタル裁判所ノ書記局ニ残コサル可シ

上訴ノ場合ニ於テハ裁判長及ヒ書記ノ一致検認シタル爲本ヲ発付セラル可シ

裁判始末書ハ判決ノ后テ原本ニテ所属ノ裁判所ノ書記ニ送ラレ且其書類保存所ニ整頓セラル可シ

第一章　違警罪ノ裁判（シヰヂユマンデコントラウヘンション）

第三百七十六条　違警罪裁判所ハ左ノ諸件ニ依リテ訴ヲ受ル可シ

第一　検察官ノ請求ニ依リ昏記ヨリ被告人ニ発シタル呼出状ニ依リ

第二　民事原告タル被害者ノ請求ニ依リ被告人及ヒ民事上ノ責ヲ負擔ス可キ諸人ニ発シタル呼出状ニ依リ

第三　司法警察官吏ノ身分ニテ現行違警罪ヲ検證シタルトキ又ハ民事原告人ノ告訴（プレント）ヲ受タルトキ違警裁判官ノ直発呼出状（シタクション チレクト）ニ依リ

第四　起訴（バルテグールシヲ井ウヘン）人ノ請求ニ依リ書記ノ單一ノ書面ニ循ヒ被告ノ出廷ニ依リ

第五　豫審裁判官又ハ第二篇ノ第四章ニ規定シタル上訴ノ一ヲ裁決ニ任スル法廳ノ一ヨリノ送付ノ命令又ハ判決ニ依リ

第六　第四篇ノ第一章ニ循ヒ裁判言渡ノ破毀ノ後ノ送付ニ依リ

第七　第三百二十六条及ヒ第四篇第三章ニ

循ヘ管轄官ノ言渡ニ依リ

以上最後ノ三項ノ場合ニ於テハ呼出狀

ハ検察官又ハ民事上起訴者ノ名ヲ以テ

発セラルル可シ

第三百七十七条　呼出狀ハ訴ノ起サレタル理

由タル事実ノ簡約ニ記載ス可シ若サルトキハ

之ヲ怠リタル書記ニ對シ政府ノ代ノ論決

ニ從ヒ其場ニテ控訴ナキ所ノ一圓以上一圓

九十五錢以下ノ罰金ヲ言渡サル可シ

呼出狀中ニ以上ノ事実ヲ記載セサル場合ニ

於テハ被告人ハ訟廷ニ於テ告知セラレタル

后チ被告ノ利益トナル可キ證人ノ未タ呼出

サレサルトキハ之ヲ呼出シ且答弁整頓ノ為メ

更ラニ三日ノ期限ヲ請フヿヲ得可シ

同上ノ場合ニ於テハ既ニ呼出サレタル被告

ノ害トナル可キ証人ノ滞在延期ノ入貴ハ書

記之ヲ擔當ス可シ

第三百七十八条　呼出狀ノ交付ト裁判所ノ出

廷ノ間ハ少クモ全三日タル可シ

第三百七十九条　若シ急速ヲ要スルトキハ裁判

官ハ閑廷ノ日ノ前訴訟當係人ノ一人ヨリノ請求ニ因リ違警罪ヲ構成スルモノト認テ申立ラレタル事実又ハ該事実ヨリ生シタリト申立ニレタル損害ノ償額ヲ自ラ検證シ又ハ監定人ニ依リテ検証セシムルヲ得可シ

對手人ハ出席ノ為メ書記ノ書面ヲ以テ呼出サル可シ但シ其欠席（アヅサニス）ヲ以テ検証ヲ遅延スルヲ要スル丁無シ

第三百八十条　被告ノ害トナリ又ハ利益トスル可キ證人ハ少クモ全一日ノ時間ヲ措キノ呼出サル可シ

裁判所ハ又本訴聽訟ヲ始ムルノ前書記ニ姓名ヲ出シ且ツ其聽訟ニ立合ハサリシ者ハ呼出シ無クシテ自カラ出廷シタル證人ヲ訊問スルヲ得可シ

第三百八十一条　當日ノ為メ指定セラレタル凡テノ事件ハ訟廷ヲ開クニ當リ書記ニ依テ呼ヒ上ケラル（アツペレ）可シ

若シ或ル被告人又ハ民事上責ヲ負フ可キ諸人出席セサルカ又ハ規則ニ循ヒ其代人ヲ出

席セシメタル件ハ此等ニ對シテハ聽訟ノ終リ迄裁決ヲ中止セラル可シ

其他ノ支件ハ其一登記（アンスクリプシヨン）ノ順序ニ從ヒ審査セラル可シ

然レトモ裁判官ハ檢察官又ハ正當ノ利益アルヲ證明スル所ノ訴訟當係人ノ請求ニ依リ該順序ヲ變更スルヲ得可シ裁判官ハ又職權ヲ以テ最モ長ヒク可キモノヽ如ク見ユル所ノ支件ハ訟廷ノ終リニ送クルヲ得可シ

第三百八十二条　各支件檢閲（エキザマン）ノ始メニ於テ裁判官ハ被告人ニ其姓氏通称年齢職業身分及ヒ住所ヲ訊問ス可シ

政府吏員ノ調書又ハ申報書アル件ハ書記ニ依リ朗讀セラル可シ

若シ調書又ハ申報書無キ件ハ訴訟支件ハ起訴人ヨリ簡畧ニ陳述セラル可シ

第三百八十三条　裁判官ハ次キニ其起訴ニ依リ被疑セラルヽ所ノ支実ニ就キ被告ヲ審問シ且其支実ノ全部又ハ一部ヲ認ムルヤ否ヤヲ訊問ス可シ

若シ被告人名代人ヲシテ出席セシムル片ハ代人ノ自白ハ被告ノ署名シタル書中ニ現在スルヿノ外採用スヿ可カラス

第三百八十四条　若シ被告人完全ノ自白アル片ハ起訴人ノ請求アルカ又ハ裁判所ノ職権ヲ以テ命令アルニ非レハ他ノ證拠ヲ差出スニ及ハス

然レ共違警罪ノ吏実ニ對スル被告ノ自白ハ被害人ノ被ムリタリト申立ル所ノ損害ノ證拠ヲ（差出スヲ）除免セス

第三百八十五条　若シ完全ノ自白アラサル片ハ被告ノ害トナル可キ證人ハ訊問セラレ且他ノ證アル片ハ被告人ニ對シテ差出サル可シ

第三百八十六条　若シ検察官ノ請求ニ依リ起訴アル片ハ最初ニ其犯罪ノ存在及ヒ法律ノ適用ニ付キ其論決ヲ擁（テウエヒバー）説スヿ可シ

民事原告人ハ次キニ違警罪ノ吏実ヲ證明スル為メ及ヒ其賠償（レバラシヨン）又ハ損害償額ニ関スル論決ヲ主張スル為メ発言スヿ可シ

被告人民支擔當人又ハ是等ノ者ノ代權人其
答弁ノ方法ヲ呈出ス可シ
若シ民支原告ノ請求ニ依リ起訴アル片ハ検
察官ハ被告答弁ノ後ニ非レハ其論決ヲ與ヘ
ザル可シ
第三百八十七条　裁判言渡ハ後ノ条規ニ循ヒ
其場ニテ言渡サル可シ或ハ又次順ノ開廷ニ
送ラル可シ
第三百八十八条　若シ規則ニ從ヒ呼出サレタ
ル被告人ノ自分又ハ特一任ノ代權人ノ出廷ヒザ
（フランデドプーウハルスペシヤル）

ルヿハ検察官及ヒ民支原告人ノ論決ニ從ヒ
欠席裁判セラル可シ
若シ又出廷シテ本訴弁論ヲ始ムルノ前退去
シタル片ハ仮令豫メ裁判スト可キ支項ノ論決
ヲ陳述シタリト雖モ均シク欠席裁判セラル
可シ
（ゴンクリユシヨン、プレジユデヒシエール）
第三百八十九条　前条ノ場合ニ於テ若シ調答
及ヒ申報書アル片ハ書記ニ依リテ之ヲ朗読
セラル可シ
起訴人ノ之ヲ請求スルニ非レハ被告ノ害ト

ナル可キ證人ヲ訊問スルヲ要セス

民事原告ノ証人ハ其訴ノ憑拠ノ為メ訊問セラル可シ

出席スル所ノ被告ノ利益トナル可キ証人ハ検察官民事原告又ハ民事上ノ責ヲ負フ可キ者ノ之ヲ請求スルカ又ハ被告ノ害トナル可キ證人ノ訊問セラレタル片ハ訊問セラル可シ裁判官ハ又職権ヲ以テ訊問スルヲ得可シ」

若シ民事上ノ責ヲ負フキ者出廷セサル片ハ彼等ニ對シテノ欠席裁判セラル可シ

第三百九十条　民事原告人ノ請求ニ依リ裁判所ノ訴ヲ受タル片ハ民事原告人ノ出廷無キヲ以テ被告人及ヒ検察官ノ間ニ於テ公訴ヲ對理裁判スルヲ妨ケズ

此場合ニ於テハ調書及ヒ申報書アル片ハ被告ノ害トナル可キ證拠トシテ之レヲ採用セラル可シ但シ検察官他ノ證拠ノ差出ヲ請求スルカ又ハ裁判所ノ職権ヲ以テ之ヲ命令スル片ハ格別トス被告ノ利益トナル可キ證人ハ訊問セラル可シ

民事ノ訴ニ對シテハ被告及ヒ民事上ノ責ヲ負フ可キ者ハ單純ニ其訴ノ棄却ヲ請求スルヲ得可シ但シ更ラニ民事裁判官ノ面前ニ呼出サル、ヿハ格別トス

又民事ノ訴ハ本訴ヲ欠席裁判シ又ハ却下セラレン事ヲ請求スルヲ得可シ

第三百九十一条　欠席裁判ノ言渡ハ之ヲ得タル訴訟當係人ノ請求又ハ注意ニ依リ其敗訟者ノ本人又ハ其住所ニ通知セラル可シ

敗訟者ハ其通知書ノ本書ノ上ニ於テスル申立又ハ其通知ヨリ三日内ニ別ニ書記局ニ為シタル申立ニ依リ故障ヲ為スヿヲ得可シ

右二箇ノ場合ニ於テハ書記職權ヲ以テ三日前ニ其事件ノ裁判セラル、當日ノ為メ其故障ニ答弁ス可キ訴訟當係人ヲ呼出ス可シ

故障ヲ為ス者ハ一日前ニ書記局ノ書面ニ依リ聽訟ノ日ヲ通知セラル可シ

第三百九十二条　故障ニ付テハ第三百八十一条乃至第三百八十七条ニ定メラレタル法式ニ循ヒ本案ノ審査ヲ行フ可シ

新タナル裁判言渡ハ訴訟管係人中何人ノ欠席スルモ故障ヲ受クヽ可カラサルモノトナス

第三百九十三条　若シ被告人ニ疑ヲ帰セラレタル支実其罪責ニ於テ充分ニ證セラレサルトキハ裁判官ハ無罪ノ言渡ヲ為ス可シ

被告人ハ第三百五十六条ニ定メタル場合ニ於テハ免訴セラル可シ

第三百九十四条　若シ其支実ノ一箇ノ違警罪ヲ成シ而シテ其被告人ノ罪責ニ於テ充分ニ證セラレタルトキハ裁判官ハ法律ニ循ヒ刑ヲ言渡ス可シ

第三百九十五条　若シ其支実軽罪又ハ重罪トシテ罰セラル可キ性質ノ見ユルトキハ裁判官ノ管轄ニ帰着ノ送付ニ依テ訴訟ヲ受クルニ非ル場合ニ於テハ自カラ管轄ニ非ル旨ヲ伸明シ且其支件ヲ郡裁判所付ノ政府目代ニ送付スルヲ得可シ

同上ノ場合ニ於テハ裁判官ハ政府ノ目代ノ論決ニ付キ又ハ職権ヲ以テ拘引状ニ依リ被告人糺問裁判官ノ面前ニ引致セラル可キ所

ノ勾捕ノ命令ヲ発スルヲ得可シ

第三百九十六条　違警裁判所ノ裁判言渡ハ左ノ區別ニ従ヒ軽罪裁判所ニ控訴セラル可シ

第一　勾留アルノ刑ノ言渡シヲ受クルトキハ被告人ヨリ

第二　検察官ノ論告ニ反シテ裁判所勾留ノ刑ヲ言渡サリシトキハ検察官ヨリ

第三　損害ノ償額ノ件ニ於テハ若シ訴ノ金額治安裁判官民支終審ノ権限ニ超ユル毎トニ民支原告人被告及ヒ民支上ノ責ヲ負フ可キモノヨリ

第四　管轄違ヒノ為メ越権ノ為メ及ヒ凡テ刑法ニ違反スルヿ又ハ彼等ノ利益ノ為メ定メタル取消ヲ来ス可キ法式ニ違反スル支ノ為テハ仮令上ニ記スル所ノ原由ノ為メ控訴ヲ受可カラサルトキト雖モ総テノ本訴管係人ヨリ

第三百九十七条　控訴ハ對理裁判ナルトキハ裁判言渡ヨリ三日内ニ又欠席裁判ナルトキニシテ故障ノ為サレサルトキハ本人又ハ其住所ヘ

ノ通達ヨリ五日内ニ其裁判ヲ為シタル裁判所ノ書記局ニスル申立ニ依リ之ヲ為ス可シ

第三百九十八条　控訴ハ昏記ヨリ控訴セラルヽ訴訟官係人ニ通知セラル可シ但シ検察官ニ於テハ唯書記ヨリ簡單ナル告知ヲ為サルヽノヱトス

第三百九十九条　何レノ場合ニ於テモ訴訟官類ハ検察官ヨリ控訴ヲ裁判ス可キ裁判所ノ書記局ニ送達セラル可シ

若シ検察官控訴ノ原告若クハ被告人タル件ハ其他訴裁判所ノ政府ノ目代ニ於テ其覚書及ヒ意見ヲ送致ス可シ

第四百条　控訴裁判所ニ於テハ訴裁判所ノ昏記ヨリ本訴官係人ヘ通知セラレタル上ニテ其支件ヲ裁判ス可シ

書記局ノ通知ノ交付ト聽訟ノ日トノ時間ハ少クモ全二日間タル可シ

證人アル件ハ全一日前ニ呼出ナル可シ

第四百一条　裁判言渡ノ或ル支件ノミニ限リ控訴ヲ為ス原告人ハ常ニ訟廷ニ於テモ尚

ホ他ノ事件ノ全部又ハ一部ニ付テ控訴スル
ヿヲ得可シ
被告人ハ何時ニテモ訟廷ニ於テスヲ已レニ及
對スル所ノ裁判言渡ノ箇条ニ對シテ自カラ
附起ノ控訴ヲ為スヲ得可シ
第四百二条　控訴ハ次章ニ從ヒ軽罪及件通常
ノ法式ニ循ヒ裁判セラル可シ
然レ共訴訟管係人ハ仮令自費ヲ以テスルモ
裁判所ノ許可ヲクシテ新タナル證人及ヒ違
警裁判官ノ面前ニテ既ニ訊問セラレタル証

人ヲ呼出スヲ得ス
第四百三条　裁判所ハ被告及ヒ検察官若クハ
猶リ検察官ヨリ為シタル控訴ニ付テハ公訴
上ノ裁判言渡ヲ可認シ又ハ否認シ刑ヲ上下
シ又ハ被告人ノ無罪ヲ言渡シ又ハ免訴スル
ヲ得可シ
若シ又猶リ被告人ノ外控訴アラサルトキハ裁
判所ハ刑ヲ昇スヲ得ス
民事ノ訴ニ對シテハ裁判所ノ権ハ民事ノ控
訴ノ為メニ規定セラレタル所ノ権ト同一ト

學級票

下等四級乙科

算法

下等五級甲部

鶴田乙丑

歳尾大試驗

明治九年十二月

亦樂塾

ス

第四百四条　第三百八十八条以下ハ控訴裁判所ノ欠席ニ適用セラルル可シ

控訴ノ欠席裁判言渡ハ本人又ハ其住所ヘ通知ヨリ三日内ニ故障ヲ受クルヿアル可シ

第四百五条　本訴ノ管係人ハ皆ナ第四篇第一章ノ条規ニ循ヒ違警罪支件ノ終審ノ對理裁判ノ言渡ニ對シ上告スルヲ得可シ

上告期限ハ裁判言渡日ヨリ三日内トス

第二章　軽罪ノ裁判

第四百六条　軽罪裁判所ハ左ノ事件ニ依リ訴ヘヲ受ク

一　検察官ノ請求ニテ被告人ニ直チニ典ヘタル呼出シニ依リ

二　紀問裁判官又ハ第二編第四章ニ定メタル上訴中ノ一ツヲ裁判スルニ付キ裁判スヘキ裁判所中ノ一ツヨリノ回送ニ依リ

三　破毀ノ後チ回送ニ依リ

四　管轄ヲ定ムル訴ヘニ依リ

畢リノ三箇ノ場合ニ於テハ検察官ノ名ヲ以テ被告人ニ之ヲ與フ

第四百七条　呼出状ニ訴ヘヲ為ス所以ノ支柄ヲ記載セサル場合ヒニ於テハ書記官ニ對スル罰金ハ二圓ヨリ五圓ニテナルヘシ

第三百七十七条ノ条規ハ上文ノ場合ニモ之ヲ適用ス

第四百八条　呼出ノ送達ト出頭ノ日トノ間ハ少クトモ三日ナルヘシ但第三百二十六条ニ記載シタル現行犯ノ場合ハ此限ニ非ス

第四百九条　被告事件禁錮ノ刑ニ當ル可キ場合ニ於テ拘留セラレテナキ被告人ニ対スル呼出シハ其被告人自ラ出頭スヘキヿヲ記載スヘシ

此記載ナクシテ被告人出頭セサルトキハ書記官ヲ費用ニテ新ニ之ヲ呼出スヘシ而シテ第三百七十七条ノ他ノ条規ハ書記官ニ適用セラルヘシ

第四百十條　被告事件罰金ニテ刑セラルヘキ場合ニ於テハ被告人ハ別段ナル代理人ヲシ

テ出頭セシムルヲ得ヘシ但裁判ニ於テ本人
ノ出頭ヲ必要トシテ之ヲ命スルトキハ此限
ニ非ス

民事原告人及ヒ民事ニ於テ責ヲニ任スヘキ
人モ亦裁判所ニテ自身ノ出頭ヲ命スルトキ
ニ非サレハ自身ニ出頭ヲナスニ及ハス
裁判ハ本人代理人ヲ出頭セシヲ自身出頭ス
ヘキ裁判所命ニ従ハサルトキモ其者ニ付
テハ対審ノモノト見做ス（コントラーディクトワル）

第四百十一條　証人ハ少クトモ中間ノ満二日
ニテ呼出タサル

第四百十二條　第三百七十九條ハ若シ事件前
以テ糺問セラレサリシニ於テハ適用セラル
ヘシ

第四百十三條　同一ノ日ニ指定セラレタル懲
治ノ事件ハ各記局ニ其登記ヲ為シタル順序
ニ循テ呼立テラレテ裁判セラルヘシ
然トモ裁判官ハ若シ検察官ノ異議ナキトキ
ハ重大ノ理由ニ依リ其順序ヲ變更スルヿヲ
得

第四百十四條　被告人尋問證據ノ差出請求及ヒ答辯ヲ席裁判及ヒ故障ニ管レテハ懲治裁判所ニ於テハ第三百八十八条以下ノ条則ヲ遵奉スヘシ

第四百十五條　然ル禁錮ノ刑ヲ言渡シタル欽席裁判ハ通知ヨリ三日ノ後チト雖モ刑ノ期満免除マテハ故障セラルヽヲ得其場合ト左ノコトシ

一　欽席人本案ニ付テ欽席ヲ為ス前預判スヘキ防禦方法ヲ申立サルトキ

二　裁判ヲ其身ニ通知セサリシトキ

三　刑ノ言渡シヲ欽席人ノ確ト知リタルノ証執行ノ所為ヨリ生セサルトキ

此畢ハリノ二箇ノ場合ニ於テハ故障ハ刑ノ言渡ヲ知リタルヨリ三日内ニ非レハ受理セラレス

第四百十六條　裁判所ハ若シ破法ノ成立チ又ハ損害ノ実況又ハ多寡ニ付キ事実発見ノタメ必要又ハ便利ナリト之ヲ信スルトキハ管係人ノ願ヒニ依リ又ハ職権ヲ以テ常ニ新証

人ノ呼出ヲ命シ心証ノ一切ノ物件書類ヲ指出サシメ監定ヲ命シ加之必用タルヘキ一切ノ場所ニ出張スルヲ得ヘシ総テ糺問裁判官ニ付キ定メタル法式ニ循フヘシ

裁判所ハ若シ預備ノ糺問ヲ為サントリシトキハ定リタル一箇又ハ数箇ノ事件ヲ取調フルヿヲ糺問裁判官ニ任シ及ヒ之ニ其通報ヲ為サシムルヲ得ヘシ

第四百十七條　若シ事柄ノ確実ト見ヘサルトキ又ハ被告人ニ負ハシムヘキ証據十分ナラサルトキハ裁判所ハ其放免ヲ言渡スヘシ

第三百五十六條ニ記シタル場合ニ於テハ免訴ノ言渡シヲ為スヘシ

第四百十八條　若シ被告人ニ負シムヘシト定マリタル事柄違警罪タルニ過キサルトキハ裁判所ハ終審ニテ裁判セラルヘシ而シテ虜刑人若シ已テニ拘留ヲ受ケタルトキハ其拘留ハ當然止ムヘシ

第四百十九條　若シ事柄ノ被告人ニ負ハシムヘシト未タ定ラサル前ト雖モ重罪タルヘシ

ト見ヘ而メ預備ノ糺問ヲ経サリシトキハ裁判所ハ職権ヲ以テ管轄違ヒナリト言渡シ而メ被告人尚未拘留セラレサリシトキハ拘引状ヲ発シテ其被告人ヲ糺問裁判官ノ所ニ送付スルヿヲ得

検察官ハ該糺問裁判官ニ訴訟ノ書類物件ヲ送致スヘシ

第四百二十條　同上ノ場合ニ於テ若シ既テニ預備糺問アリシトキ控訴院ニテ送附ニ付キ裁判セシヿナキニ於テハ裁判所ハ該院ノ刑事局ニ訴訟ヲ送付スヘシ

此刑事局ハ第二百八十九條及ヒ第二百九十条ニ照准シテ正シク下調ヘヲ為シタル後チ重罪裁判所又ハ懲治裁判所ニ被告人ヲ送致スルヿヲ言渡スヘシ

第四百二十一條　若シ裁判所控訴院ノ送付シテ訴ヲ受ケタルトキト雖トモ該裁判所更ニ新事件ヲ発見セスシテ其事柄ノ重罪タルヘキヲ認ムルトキハ裁判所ハ管轄違ヒナリト言渡シ而メ第六百四条ニ照准シテ破毀院ト

管轄違ヒノ訴ヘヲナスヘシ

第四百二十二条　前二条ニ定メタル場合ニ於テ懲治裁判所ハ検察官ノ論決ニ依リ又ハ職権ヲ以テ管轄定メノ訴ニ付判決アルマテ拘留状ニテ裁判所ノ拘留場ニ被告人ヲ拘留スルヿヲ命スルヲ得

裁判所ハ第二百三十条以下ニ定メタル規則ニ循ヒ假釋ニ付キ判決スルヿヲモ得ヘシ

第四百二十三條　被告人ニ負ハレムヘキト定マリタル事柄軽罪タルニ於テハ懲治裁判所ハ法ニ定メタル刑ヲ適用スヘシ

裁判所ハ同一ノ裁判ヲ以テ又ハ會議局ニ於テ後ヲノ判決ヲ以テ處刑人又ハ検察官ノ双方ノ論決ニ依リ假釋ヲ与ヘ又ハ其侭居ヘヲキ又ハ取消スヲ得ヘシ

第四百二十四條　懲治裁判所ニ與ヘタル裁判ハ尤ノ區別ニ循ヒ訴訟ノ本人ヨリ控訴院ノ刑事局ニ控訴セラルヽヲ得

一　放免免訴處刑ノ総テノ場合ニ於テハ検察官ヨリ

然トモ裁判所ニテ事件ハ違警罪タルニ過キスト裁判シタル場合ニ於テハ検察官ハ其事件ハ軽罪タルヘシト主張スルトキニ非サレハ控訴スルヲ得ス

二　違警罪ニ付テノ言渡シヨリ他ノ言渡ノ場合ニ於テハ被告人ヨリ

三　民事裁判所ノ初審ノ管轄ノ規則ニ循テ願ヒノ多寡ニ順ヒ償金ニ付テハ互ニ民事原告人被告人反ヒ民事上ニテ責メヲ負フヘキ者ヨリ

四　管轄違ヒニ付キ越権又ハ刑法又ハ各自ノ利益ノ為メ無效ノ刑ニテ記載シタル法式ノ干犯タル上文ニ名シタル総テノ管係人ヨリ

第四百二十五條　対審裁判ニ対スル控訴ハ其言渡シヨリ五日内ニ為サヽルヘカラス

欽席裁判ニ付テハ控訴ハ若シ本人ヨリ故障ヲ為サヽリシニ於テハ裁判通知ヨリ五日内ニ為サヽルヘカラス

然トモ控訴ハ第四百十五条ニ記載シタル場

合ニ於テハ刑ノ期滿免除マテハ受理セラルヘシ

第四百二十六條　若シ被告人拘留セラレ而メ刑事ノ判決ニ対シテ控訴ヲナシタルトキハ被告人ノ政府ノ目代ノ世話ニテ控訴院ノ拘留場ニ移ルヘシ

第四百二十七條　控訴ノ「エフヘー、デウホリュチフ」（ヨリ彼レニ物ヲ移スノ義「エフヘー」ハ数ナリ）ヨリ彼レニ物ヲ移スノ二付キ第四百三条ノ条規ハ懲治事件ノ控訴ニ適用セラルヘシ

第四百二十八條　懲治裁判所ノ検察官ノ控訴又ハ検事長ノ附帯ノ控訴ニ付キ控訴院ニテ其支件重罪タルヘシト認ムルトキハ控訴院ハ糺問ノ補ヒヲ為スタメノ其委員中ノ一員ヲ任シ及ヒ之ニ其報告ヲ為スヘシ控訴院ハ其後チ會議局ニテ裁判スヘシ而シテ其場合トニ依リテハ第二百八十九條ヨリ第二百九十一条マテノ条規ニ照準シテ重罪裁判所ニ被告人ヲ送付スヘシ

第四百二十九條　若シ本人中ノ一人控訴ニ於

テ欽席ヲナストキハ初審ノ裁判ニ於テ其欽席ヲナス場合ヒニ於ケルカコトリ其者ニ付テハ裁判ニ取掛ルヘシ

同上ノ規則ハ故障ニ付テモ遵奉セラルヘシ

第四百三十條　破毀上告ハ対審ニテ与ヘラレタル裁判又ハ判決ニ対シ総テ訴訟管係人ヨリ第四編第一章ノ条規ニ照準シテ為サル上告ノ期限ハ裁判言渡ヨリ三日ナリ

第三章　重罪ノ裁判（ダエヒコマンヘテ、クリ）

第四百三十一條　重罪院ハ左ノ事件ニ依リテ訴ヲ受ク

一　糺問裁判官又ハ第二編第四章（第二百五十八条以下）ニ規則立テタル上訴ノ一ツニ依リ裁判スヘキ裁判所ノ命令又ハ送付ノ判決ニ依リ

二　第二百九十二條第四百二十条及ヒ第四百二十八條ニ記載シタル場合ニ於テ控訴院ノ送付ニ依リ

三　破毀ノ後ナノ送付ニ依リ

四　管轄定メノ訴ヘニ依リ

第四百三十二條　重罪院ヘノ送付取消スヘカラサルニ至リタルトキ若シ重罪院控訴院ト同一ノ地ニ在テ及ヒ控訴院檢事長ノ論決ニ依リ控訴院ニ事件ヲ操リ上ケタル場合ニ於テハ檢事長又ハ其補員中ノ一人公訴狀ヲ作ルヘシ

若シ檢事長ノ論決ニ反對シテ事件ヲ操上ケタルトキハ公訴狀ハ第二百十二條ノ法文ニ依リ檢察官ノ職務ニ任セラレタル院ノ委員ニテ之ヲ記載スヘシ

他ノ場合ニ於テハ檢事長自分ニ公訴狀ヲ記スルヲ得ヘク又第八十七条ニ照準シテ重罪院ニテ政府ノ目代ノ職務ヲ行フヘキ官吏ニ之ヲ任スルヲ得ヘシ

第四百三十三條　公訴狀ニハ左ノ事件ヲ記スヘシ

一　被告事件ノ事柄及ヒ罪ヲ重クシ又ハ軽クスヘキ狀情ノ說明

二　被告人又若シ之レアルナラハ其同正犯ノ明瞭ナル指示シ及ヒ此場合ニ於テ重罪

ニ各自ノ干預シタル性質及ヒ等級

三　被告人ノ便利（デミヤルニシテ）又ハ不便利（シヤルニシテ）ニ於テ紀問中取集メタル緊要ナル証據又懲憑ノ申述ヘ

公訴狀ニハ被告人ノ差示シ事柄ノ法律上ノ罪名称刑法ノ法大ノ差示シ及重罪院ニ送付ノ命令又ハ判決ノ記載ヲ約言シテ之テ畢フヘシ

公訴狀ニハ之ヲ記シタル官吏手署スヘシ

第四百三十四條　公訴狀ニハ送付ノ命令又ハ判決中ニ記シタル所ノ事柄ヨリ以外ノ主タル事柄附帶ノ事柄又ハ以外ノ被告人ヲ記載スヘカラス

第四百三十五條　若シ送付書中ニ同一ノ被告人ニ附帶セサル數箇ノ重罪ヲ負ハシメタルトキハ檢事長ハ各別ニ公訴狀ヲ作リ各事件毎ニ別々ニ辯論及ヒ陪審ノ商議ヲ為シ而ル後テ一箇ノ判決ニテ裁判セラレンヿヲ命センヿヲ上席人ニ請求スルヿヲ得ヘシ

若シ唯一箇ノモノ公訴狀ヲ記シタルトキ上席人若シ檢察官ノ異議ナキニ於テハ各件ニ

分別スルヿヲ命スルヲ得ヘシ

又上席人ハ分別シタル二箇ノ公訴狀ヲ集合スルヿヲ命令スルヿヲ得

第四百三十六條　公訴狀ノ寫シハ被告人ノ出頭スヘキ訟庭ヨリ少クトモ五日前ニ之ニ送達セラルヘシ

若シ數人ノ被告人アルトキハ其各自ニ其寫シヲ渡スヘシ

第四百三十七條　上文ノ送達ヨリ二十四時ノ後ヲ重罪院ノ上席人又ハ其委任シタル其陪席人ノ一人ハ書記官ノ立合ヒニ依リ送付書中ニ被告人ニ負ハシメタル事件ニ付被告人ヲ尋問スヘシ

第四百三十八條　被告人尋問ノ畢ハリニ上席人ハ被告人ニ辯護人ヲ撰ミタルヤ否ヤヲ問フヘシ但辯護人ニハ代言人ニ非ルモノト雖トモ撰マルヽヲ得ヘシ

若被告人辯護人ヲ撰マサルトキハ上席人ハ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ代言人中ヨリ之ヲ撰ムヘシ

治罪法草案審査局

右代言人ナキトキハ院ノ上席人ハ最近ノ裁判所ノ上席人ニ其裁判所所属ノ代言人ヲ職権ヲ以テ撰ムヘキヿヲ請求スヘシ

若シ数人ノ被告人アルトキ被告人又ハ代言人ヨリ異議ヲ為サヽルニ於テハ職権ヲ以テ撰ミタル同一ノ代言人ヲ辯護人トスルヲ得ヘシ

被告人ハ職権ヲ以テ代言人ヲ撰ミタルヨリ三日ノ後ニ非レハ吟味及ヒ辯論ニ從ハルヲ得ス

第四百三十九條　辯護人差支アルトキ又ハ被告人正當ノ原因ニ付新代言人ヲ願フトキハ上文ニ述ヘタルガコトク職権ヲ以テ他ノ者ヲ命スヘシ而メ辯論ハ其進ミ方ノ度ニ從ヒ一日以上三日以下停止セラルヘシ加之其事件ヲ他ノ陪審ニ付スルヲ得ヘシ

第四百四十條　通常ノ方式ニテ尋問并辯護人ノ撰ミニ管スル方式ノ書面ヲ作ルヘシ

若シ辯論中辯護人ヲ憂シタルトキハ其旨ヲ公判始末書ニ記載スヘシ并ニ之ヨリ生シタ

ル停止ヲモ記載スヘシ

第四百四十一條　若シ被告人総テノ辯論中聊（コシ）言（セーエ）人ノ立合セナカリシトキハ刑ノ言渡シノ無效ヲ言渡スヲ得

然トモ第四百三十六條ヨリ第四百三十九条マテニ記載シタル方式期限ヲ遵奉セストイヘトモ若シ此事項ニ付キ被告人ノ要求ナリシテ辯論ヲ始シメ又ハ再続シタルトキハ其不遵奉ニ付キ異議ヲナスヲ得ス

第四百四十二條　辯護人ト尋問ノ後ヲハ自由ニ被告人ト交通スルヿヲ得ヘク及ヒ書記ヲニ於テ訴訟ニ管スル書類物件ヲ検閲（ケンエツ）スルヲ得

辯護人ハ又其寫ヲ取ルヲ得但其書類物件ヲ他ニ移スヲ許サス

其他何人トイヘトモ送付ノ命令以後重罪院ノ判決マテハ被告人ト交通スルヲ得ス但被告人拘留セラル管轄地ノ裁判所ノ上席ノ允許アルトキハ此限ニ非ス

第四百四十三條　検事長及ヒ民事原告人ノ請

求ニ依リテ呼出証人ノ名簿ハ少クトモ訟庭ノ日ヨリ一日前ニ被告人ニ送達スヘシ

被告人ノ請求ニ依リ呼出シタル証人ノ名簿ハ同上ノ期限内ニ書記官ヨリ検事長ニ之ヲ送達スヘシ

雙方ヨリ申立テタル民事ノ償ヒニ付キ被告人ヨリ証人ヲ呼出シタルトキハ其名簿ヲ民事原告人ニ送達スヘシ

第四百四十四條　被告人ヨリ出シタル証人又ハ之ニ対シテ出シタル証人ノ名ヲ法ニ記シタリ時間ニ通知セサリシトキハ其証人ハ示教ノ名義ニテ誓言ヲ為スヿナリ上席人ノ専決権ヲ以テスルニ非レハ聞糺スヲ得ス但相手方ヨリ誓ヒノ信用ヲ以テ之ヲ聞糺スモ異議ナキ旨ヲ申立テタルトキハ此限ニ非ス

第四百四十五條　訟庭開キハ公ケノ訟庭ニ於テ陪席裁判官二名ノ立合ヒニ依リ検察官ノ面前ニテ陪審ノ徴集ニ付キ定メタル場所日時ニ於テ上席人正式ニ以テ之ヲ為ス

第八十九條及ヒ第九十条ニ差示シタル二十

治罪法草案審査局

名ノ本官陪審及ヒ四名ノ補負陪審必ス出席
セサルヘカラス
其氏名ハ抽籤ヨリ出テタル順序ニ循ヒ各記
官之ヲ呼ヒ上クヘシ
被告人ハ出席スヘカラス
第四百四十六條　何レノ本官陪審モ呼上ケニ
應セサルモノナキト及ヒ其陪審何レモ法
ニ定メタル不能カ又ハ抵觸ノ場合中ニアル
モノナキトキハ會審名簿ヲ即時ニ取結スヘ
シ

補負陪審ハ退出スルヿ自由タルヘシ
第四百四十七條　若シ一陪審其氏名ノ呼ヒ上ケ
ニ應ヘス而正當ノ宵怨ノ辨解ヲナサヽルト
キ且法律上ノ不能カ又ハ抵觸ノ場合ヒニモ
アラサルトキハ其陪審ハ即時ニ檢察官ノ論
決ニ依リ二十圓以上五十円以下ノ罰金ヲ言
渡サルヘシ
其言渡シニハ本年後期ノ抽籤ニ充ツヘキタ
メ其氏名ヲ再ヒ周年名簿ニ編入スヘキヿヲ
載スヘシ

第四百四十八條　前条ノ言渡シハ即時ニ之ヲ陪審ニ送達スヘシ

此言渡シハ罰セラレタル陪審ニ付テハ言渡シノ送達ヨリ又檢察官ニ付テハ言渡シノ日ヨリ三日内ニ於テ破毀上告ニ非サレハ為サルヽヲ得ス

然トモ若其陪審正當ノ差支ナク而メ出頭スルヲ得ヘキニ至リシヤ否ヤ直チニ其宥恕ヲ申立テタルトキハ院ハ檢察官ノ意見ヲ聞キタル後チ罰金ノ全部又ハ一部ヲ免除シ及ヒ本年後期ノ抽籤ニ當シテ命シタル所置ヲ取消スヲ得

若シ其宥恕ヲ訟庭ヲ閉チタル後チニ申立テタルトキハ院ハ此權ヲ行フヲ得ス

第四百四十九條　若シ一人又ハ数人ノ陪審第四百四十七條ニ依リテ罰セラレタルトキ又ハ適正ニ宥恕セラレタルトキ又ハ不能カ又ハ抵觸ノ法律上ノ場合中ニアルトキハ即時別段ノ名簿ノ順序ニ依リテ取リタル補負陪審官ヲ以テ其代負タラシムヘシ

補員陪審ノ名簿ノ人員ヲ取リ盡リシタルノ後ヲ出席シテ能カアル陪審ノ員数十六人以下ニ減シテアルトキハ二十名ノ本官陪審ノ数ヲ充ツルタメ必用ナル陪審ノ数ヲ補員陪審ノ周年名簿ヨリ即時抽籤スヘシ

此場合ヒニ於テハ最初ノ訟庭ハ新陪審徴集ノタメ三日間延引スヘシ

延引ハ出席シタル陪審ニ付テハ徴集ノ價ヒ（ウオドフ）アリトス

第四百五十條　正式ノ訟庭ヲ再ヒ開ク為メニ定メタル日ニ於テ會審名簿ハ上文ニ定メタル方式ニ循テ極定シテ収結セラルヘシ

第四百五十一條　各陪審ノ氏名職業住所ヲ載セタル會審ノ極定名簿ノ寫シハ總テノ被告ニ送達スヘシ但其送達ト被告人ノ訟庭ニ出頭トノ其間少クトモ二十四時ノ猶豫アルヘシト

此送達ナキモ若シ被告人ヨリ請求セサリシニ於テハ第四百五十八条ノ条規ニ照準シテ裁判ノ陪審ヲ撰定シタル後チハ被告人ヨリ

異議ヲ申立ルヲ得ス

第四百五十二條　上席人ハ次ノ心得書（アドキユシヨン）ヲ展読シテ陪審ニ其職務ノ性質及ヒ其権利ト職（トボワール）分トノ廣サヲ知ラシムヘシ但此心得書ハ第四百四十七條第四百四十八條第四百五十四條ヨリ第四百五十八條マテ及ヒ第四百九十二條ヨリ第五百二條マテノ法文ニ付シテ之ヲ印刷シテ訟庭開キノ日各陪審ニ之ヲ渡スヘシ

陪審心得書

陪審諸君（ニ告ク）

諸君ハ法律ニテ一時法官ノ職務ヲ行フヿニ召ハレタリ其職務タル貴重ニ係レリ諸君ハ尋常永続（ペルマセン）ノ法官（ジユストラー）ト共ニ會審ノ重罪支件ノ裁判ニ分當スヘシ法律ハ此重大ナル事件ヲ裁判スルノ権ヲ以テ別段ナル職業ニ従事シタル官吏中ノ者ニ委任スルヿヲ欲セス尤モ著シクシテ人民ノ殊ニ尊信スル所ノ「モラール」ノ権ヲ刑事法廷ノ判決ニ付与スルカ為メ法律ハ「サンプルトワイヤン」（「サンプル」ハ「並ミ」ノ意「シトワイヤン」ハ「廿五歳以上ノ男子ニシテ國権ヲ有スル國民ナリ」）ヲ召ヒテ斯ニ于

預セシム故ニ被告人ハ其同等ノモノニ裁判
セラレ而メ社會ノ利益ハ社會自ラ之ヲ保護
スルナリ
陪審ノ職務ハ一ノ須撿(シルシ)ナリト雖モ亦真ニ一
ノ栄誉ナリ何ントナレハ陪審ハ人ノ自由又
時トシテハ人ノ生命又生平ニ人ノ栄誉ニ管
スル所ノ事件ヲ裁判スルカ為メニ召ハルヽ
モノナレハナリ刑事法廳ニ付テノ此一時ノ
委任ハ法ニテ民人ノ正直(ヒタスラルサジツス)ト慧及ヒ其明智(リミール)ニ
与ヘタル信任ノ尤モ高キ標ルシナリ

法學堂蔵書

諸君ノ職務(アツトリビユン)ハ訴訟事件ヲ監定スルニ止ルヘ
シ「ドロワ」ノ判決及ヒ刑法民法ノ適用ハ諸君
立合フ所ノ法官ニ依任セラル
然トモ諸君ノ勤ムル所亦狹キニ非ス又卑キ
ニ非ス諸君ノ吟味スヘキ所ハ唯公訴ノ眼目
タル有形ノ事件ヲ犯シタルヤ被告人ハ其本
犯タルヤ否ヤノミナラス尚ホ集合シテキユ
ルパビリテ」ニシテ本然ナル原素ヲ組成スル
所ノ自由支智及ヒ意趣アリテ被告人ノナセ
シヤ否ヲ吟味スルニ在リ加之時トシテハ法

治罪法草案審査局

律ノ問題ト事實ノ問題ト牽連シテ分ツヘカラサルヿナク此場合ニ於テハ法律ノ問題ト事實ノ問題トヲ断定スルハ諸君ノ任ニ在リ

辨論ヲ畢ハルノ後テ各被告人ニ擬抵シタル主タル事件及ヒ附帯ノ事件ニ付キ并ニ事件ヲ加重シ又ハ之ヲ宥恕シ又ハ之ヲ辨解スルヲ得ヘキ所ノ法律定メタル狀情ニ付キ断定スヘキ問題ヲ口上又ハ書面ヲ以テ諸君ニ与フヘシ

多クハ此問題ハ預備ノ紀問中ニ於テ発覚シタル証憑ナリトテハ依ラサルモノト虽トモ并論ニテ日ヲ異ニシテ事件ヲ顯ハシ又ハ最初ノ事ニ付帯シタル新事件ヲ被告人ニ負ハシムルニ至ルヿアルヘシ然ルトキハ諸君ニ他ノ問題ヲ与フヘシ故ニ諸君ノ嘗轄ハ廣マルヘキナリ

時トシテハ附与シタル問題ノ吟味ハ諸君其已前ノ問題ヲ否ト決シタルトキニ非サレハ為スヘカラサルヿアリ故ニ第二ノ問題ハ涙

心(ヂシンヲヲール)条件タルヿアリ又他ノ助ケトナールヿアラシブシギエール
ン
諸君ハ付与シタル問題ニ付キ可又ハ否ト應
フルニ過キサルヘシ故ニ抱合(コンプレツキス)ノ問題即チ数
箇ノ事件ヲ含蓄スル問題ハ務メテ之ヲ避ク
ヘシ然レトモ時トシテハ問題ノ數甚多キニ
過クルヲ恐ルヽカ故ニ若シ事件ノ数沢山ナ
ルモ専ラ被告事件ノ形状ヲ明晰スルニ足リ
テ刑ニ影響ヲ生セサルトキハ一様ナル數箇
ノ事件ニ付キ只一箇ノ尋問ヲナスヲ得ヘシ

治罪法草案審査局

吹場合ニ於テハ若シ諸君一事件ニ付テハ可
ト應ヘント欲シ又他ノ事件ニハ否ト應ヘン
ト欲スルトキハ諸君ハ投票ヲ分チテ而ソ問
題ニ集合シタル各事件毎ニ幾様ノ應ヘヲ為
スヲ得ヘシ
諸君ハ諸君ノ権限ニ付キ又ハ問題ノ意味又
ハ性質ニ付キ遅疑スルヿモ亦有ルヘシト法
ニテ之ヲ推察セリ吹場合ニ於テハ法ハ諸君
ニ必要ナル説明ヲ与フル為メニ上席人ヲ召
フヿヲ諸君ニ許ス然ルトキハ訟訴ノ利益ヲ

治罪法草案審査局

重シスルヿヲ慥ムルタメ彈告人及ヒ被告人ノ辯護人ノ立合ヒヲ必用ナリトス

諸君ノ商議ノ法式ニ付キ法律ニテ定メタル別段ノ細目ハ其条規ノ拔キ書ヲ以テ諸君ニ交付スヘシ諸君ハ亦此ニ其通報ト共ニ諸君ノ他ノ職分ヲモ見ルナルヘシ

今此ニハ各訟庭ノ日ニ諸君ノ出頭スルヿハ各事件ノ陪審抽籤ノ為メ又ハ始メタル事件ヲ継続スルタメニ嚴ニ之ヲ要シ并ニ院ニテ其判決ヲ言渡サヽル限リハ諸君ニ付与シタル事件ニ管シ決シテ他ノ人ト交通スヘカラサルヿヲ諸君ニ告諭スルノミ

諸君ハ諸君ノ決議スヘキ事件ニ付キ互ニ發明スルタメ諸君中ニテ自由ニ討論スルヿヲ得然トモ諸君發言スルトキニハ法ハ諸君ノ投票ノ全キ獨立ヲ保セシカタメ秘密ナランヿヲ欲ス

諸君兼クル所ノ信用ハ法ノ見ル所ニテハ平等ナリ故ニ各事件ニ付キ諸君中ニテ諸君ノ會議ニ上席スルヿヲ指定スルモノハ抽籤ナ

リ然トモ籤ニテ指定セシ所ノ人以職務ヲ辭スルトキハ諸君ハ投票ノ多數ニ依リテ諸君上席人ヲ撰ムヘシ但以旨ヲ問題書ニ記載スヘシ

事実ノ捜索ハ屢困難ナルモノナルカ故ニ其捜索中ニ於テ諸君ヲ明ラカナラシムルタメ尤モ自由ニシテ尤モ十分ナル辯論ヲナサシムヘシ預備紀問中ニ於テ生シタル負擔ハ辯論中ニ於テ更ニ生シタルトキニ非サレハ其重ミヲ持タス諸君ハ被告人ノ尋問証明ノ証據書類ノ読ミ聞カセ便宜又ハ不便宜ノ証人ノ申立テニ立合フヘシ加之ナラス諸君ハ決シテ自己ノ意見ヲ述ヘサルヤウニ注意シ諸君要用ナリト思量スル所ノ問題ヲ被告人又ハ証人ニ付与スルヲ得ヘシ彈告ト辯護トノ間ニ於テスル對審辯論此各証據ノ價ヒヲ監定スルヿヲ許シ畢ンヌ

然トモ能ク注意セラルヘシ辯論ニ於テ備ヘタル証據ハ何レモ法律ニ於テ諸君ノ心証ヲ取ラシムルモノニ非ス訴訟事件ヲ洞見スル

ハ獨リ諸君ノ知能(モテリサンス)ニ在リ其意趣及ヒ善惡(モラリテー)ト
識別スルハ諸君ノ良心ニ在リ
故ニ法ハ諸君ノ心証ノ生シタル所以ノ証
拠ヲイフヿヲ諸君ニ望マス諸君ハ諸君ノ決
断ノ理由ヲ述フルニ及ハス法ハ諸君ノ認メ
タル所ノ事柄ヲ單ニ言述スルノミヲ望ム而
メ法ノ見ル所ニテハ乃チ之ヲ真実トスルナ
リ
又法ハ被告人ノ心意(モラリテー)及ヒ重罪ニ依リテ生シ
タル社會ノ患ノ幽微ナル所ハ総テ之ヲ預断

治罪法草案審査局

スル能ハス又各自ノ罪根(ルーツ・ヒヒンシプル)ハ被告人ノ年齢知
能志欲(カンテー)ノ度及ヒ教育模範(モデル)地位ニ由リテ際限
ナク變スルカ故ニ法ハ其預定セサル所ノ加
重ノ状情ヲ陳フルヿヲ諸君ニ許サス然トモ
亦之ニ及シ諸君ノ定ムヘキ所ニハ非ラサレ
トモ獨リ諸君ノ良心ヲ以テ裁判官トナセシ
所ノ軽減ノ情状ノ成リ立チハ特ニ之ヲ陳ス
ルヿヲ許ス
然トモ若シ諸君裁判スヘキノ権ナキ法ノ罰(セリ)
例ヲ討ツタメ此權力ヲ用ヰ又ハ諸君ノ正理(ジスチース)

治罪法草案審査局

ト憐憫（ビケン）トヲ感荷スル方法ヲ以ニ求ムルニ於テハ諸君ノ職分ニ背キ立法官ノ本意ニ悖ルモノナリ又其疑惑ノタメニ苟モ免ルヽヿヲ斯ニ求ムルニ於テハ最モ宜シカラス諸君疑惑スルトキハ必ス被告人ニ便利ナル應ヘヲ為サヽルヘカラサルヿヲ忘ルヿナシ

諸君ハ諸君ノ權限内ニ在リテ諸君ノ會議ノ為メ定メタル規則ニ背カサル諸君ノ決断ハ動カスヘカラサルモノニシテ以ヽ決断ハ乃チ諸君ノ栄誉ノ外ハ之ヲ監察スルモノナリ

又諸君ノ良心ノ外ハ之ヲ裁断スルモノナキニ依リ諸君最モ以テ事実推窮ニ心ヲ竭サヽルヘカラサルアリ

法ハ顧慮スルヿナリ諸君ノ掌中ニ置クニ同ク貴重ナル二箇ノ利益ヲ以テス乃チ私ナク裁判セラレサルヘカラサル被告人ノ利益并ニ諸君自ラ害ヲ受ケルヿナク惰弱ヲ以テ棄テ措クヲ得サル社會ノ利益是ナリ

陪審諸君余ハ法律ニ從テ諸君ノ誓ヒノ領受セン

第四百五十三条　上席人ハ誓ヒヲ為サシムル
タメ陪審ニ起立セシムヿヲ望ミ左ノ式書キヲ
之レニ読聞アスヘシ

陪審誓文

余ノ名誉及ヒ良心ニ循ヒ余ノ前ニ引致セラ
レタル被告人ニ負ハシメタル所ノ負擔及ヒ
其防禦ノ為メ陳述セタル方法ヲ尤モ心ヲ竭シ
テ吟味スヘキ事社會ノ利益モ被告人ノ利
益モ害セサル事裁判ノ後チマテハ余ノ干預
シタル支件ニ付何人ニ限ラス交通セサル事

憎悪邪心ヲモ恃懼愛憐ヲモ生セサル事被告
人ニ対シ又ハ其便宜ノ為メ弁論中差出ス所
ノ証拠ニ循ヒ余ノ至切ナル心証ニ従テノミ
自ラ決断スヘキ事及ヒ自由正直ナル裁判官
ニ適應スル所ノ公平ト固執トヲ以テ余ニ付
与セラレタル所ノ問題ニ應フルヿヲ誓フ
各陪審ハ其氏名ノ呼立ニ依リテ應フヘシ曰
ク

余之ヲ誓フト

之ニ次テ陪審ハ宣誓書ニ手署スヘシ且此宣

誓書ニハ日附ヲ付シ上席人書記官手署捺印シ之ヲ會審名簿ニ附添スヘシ

第四百五十四條　各事件ノ弁論ニ付キ定メタル日ニ公ケノ訟庭ニ於テ院検察官陪審全員及ヒ弁護人ノ立合ヒアル被告人ノ面前ニ於テ會審名簿ニ依リ裁判陪審ノ抽籤ヲ為スヘシ

書記官ハ出頭セシ各陪審ノ氏名ヲ呼ヒ其陪審ノ名簿中ニ占ムル所ノ番号ニ適應セル順序ノ番号ヲ壺中ニ納ムヘシ

若シ陪審出頭セスシテ宥恕重大ナル原因ノ辨解ヲ為サヽルトキハ名簿ヲ作リタル後チ直チニ検察官ノ論告ニ依リ院ニテ第四百四十七条ニ載セタル罰金ヲ言渡サルヘシ

若シ同一ノ會審ニ於テ正當ノ事由ヲ弁明セスシテ再度出頭セサルトキハ院ハ最高ノ罰金ヲ言渡シ而ソ其陪審ノ氏名ハ芟除セラレ本手ノ他ノ會審ニ抽籤セシムルタノ周手名簿ニ載セラルヽヿヲ余スヘシ

第四百四十八條ノ条規ハ本条ノ場合ニモ之

ヲ適用ス

第四百五十五條　臺中ニ出頭セシ丈ケノ陪審ノ氏名アルトキハ上席人ハ檢察官及ヒ被告人ニ其忌避ノ理由ヲ陳ヘスシテ各五人ノ陪審ヲ忌避スルヲ得ルヿヲ告知スヘシ

然トモ若シ不參ニ依リテ出席セシ陪審ノ數二十名以下ニ減セシトキハ檢察官ノ忌避ノ數ハ減セラルヘシ被告人ノ忌避ハ陪審ノ數十五名ニ滿タサルトキニ非サレハ減セラルヽヿナシ

若シ出頭セシ陪審ノ數十名ニ滿タサルトキハ裁判ニ取拂ルヽヿヲ得ス

第四百五十六條　臺中ヨリ出テタル各陪審ノ氏名ノ呼立テニ循テ檢察官及ヒ被告人ハ逐次ニ其忌避ノ申立テヲ為スヘシ

被告人ノ辯護人モ亦之ト商議セシ後ヶ被告人ノ名ニテ忌避ヲナスヲ得

檢察官ハ第一ニ忌避ス

第四百五十七條　若シ數人ノ被告人アルトキハ其辯護人ニ忌避ヲ為サシムル為メ五ニ商

議スヘキヿヲ上席人ヨリ告知スヘシ
若其被告人商議セサルトキハ忌避ノ權ハ各
自区別ナリ之ヲ行フヲ得
第四百五十八條　忌避セラレサル所ノ十名ノ
氏名壷中ヨリ出ルトキハ即チ裁判陪審ハ成
立ツ
第四百五十九條　彈告ノ性質ニ循ヒ又ハ被告
人ノ數ニ循テ弁論ハ二日以上引続クヲ得ヘ
シト上席人ノ思量スルトキハ上席人ハ抽籤
ノ前一名又ハ數名ノ補負陪審ヲ抽籤セシヿ

治罪法草案審査局

ヲ命スルヲ得此場合ヒニ於テハ檢察官ニ許
ルシタル忌避ノミ減セラルヘシ
此陪審ハ他ノ陪審ノ次席ニ就キ総テノ辨論
ニ立合フヘシ然モ此陪審ハ最初ノ十名ノ陪
審中ノ一名又ハ二名総テノ訟庭ニ出席スル
ヲ得サリシトキニ非ラサレハ會議ニ于預ス
ヘカラス
差支アル一名ノミノ代リハ抽籤ニテ最初ニ
呼ハレタル補負之ヲ為スヘシ
同一ノ旨趣ニ依リ重罪院所在ノ地ノ裁判所

治罪法草案審査局

中ヨリ取リタル補負陪審人ヲ加フルヲ得

第四百六十條　裁判陪審ノ名簿ハ上席人及ヒ書記官即時ニ手署シテ之ヲ訴訟書類ニ添ヘ置クヘシ

第四百六十一條　陪審官設置セラルノ即時陪審ハ籤ヨリ出テタル順序ニ循ヒ院ノ側ニ席ヲ為スヘシ

陪審ハ傍聽人訴訟當係人證人ノ席ト離レ被告人ノ席ト相対シテ席ヲ占ムヘシ

第四百六十二條　院ニテ訴訟庭ヲ開キタルノ後即時ニ吟味及ヒ辨論ヲ開クヘシ上席人ハ被告人ヲ起立セシメテ之ニ其氏名年齢出生地身分職業及ヒ居所ヲ問

此点ニ付キ被告人ノ陳述スル所ト紛問中ノ其陳述ト組結スト雖モ其被告人弾告書ニ指定スル所ノ者ニ相違ナキニ於テハ辨論ヲ為スノ妨トナルヿナシ

第四百六十三條　書記官ハ檢察官及ヒ都テ訴訟當係人ノ請求ニ依リ呼出シタル証人ノ氏名ヲ呼立ツヘシ

証人ハ訟庭ニ接シタル一室中ニ退キ其供述
ヲ為スノ際此処ヨリ順次ニ呼出サルヘシ
呼出サレサル者ナリト雖モ上席人専決ノ権
ヲ以テ参考ノ名義ニテ尋問セン吏ヲ管係人
ヨリ願ノ所ノ人ニ付テモ亦同様ナリ
上席人ハ常ニ同上ノ権ニ依リ呼出シタルト
否トニ拘ラス都テ辯論ニ立會ヒタル所ノ人
ハ之ヲ尋問スルヲ得然レトモ此人ハ誓ヲ為ス
事ナク参考ノ名義ニテ供述スヘシ
第四百六十四條　其後上席人ハ被告人ニ告諭
スル二書記官ニ為サシムル所ノ送付ノ命令
又ハ判決及ヒ弾告書ノ讀ミ渡シニ注意スヘ
キ事ヲ以テス
第四百六十五條　此讀ミ渡シヲ畢ル ノ後上席
人ハ被告人ニ生タル事件并ニ縁属ノ事件又
ハ附帯ノ事件ヲ訊問スヘシ
若シ被告人紊問中ニ白状ヲ為シ而ノ之ヲ確
認セス又ハ之ヲ取消スニ於テハ上席人ハ之
ニ此変改ニ付キ其説明ヲ求ムヘシ
被告人ノ白状ハ仮令ヒ十分ナルモ院及ヒ陪

審ハ其支件ノ全キ吟味ヲ為サヽルヘカラス

第四百六十六條　訊問ノ後上席人ハ被告人ニ告クルニ之ニ対シテ証據ヲ差出スヘク而メ之ニ次キテ被告人ハ此各証據ニ付キ辯解ヲ為シ并ニ其利益トナルヘキ反對ノ証據ヲ差出スノ権アル事ヲ以テスヘシ

第四百六十七條　其後証人ハ左ノ順序ニ循ヒ呼出サレ而メ聞糺サルヘシ

一　検察官ニ依テ呼出サレタル証人

二　民事原告人ニ依テ呼出サレタル証人

三　被告人及ヒ民事ニテ責ヲ負フヘキ人ニ依テ呼出サレタル証人

然リト雖モ此終リノ二種ノ証人ハ彈告ニ関スル事件ニ非ラサレハ此時ニハ聞キ糺サレサルヲ得而メ民事賠償ニ関シテハ聞キ糺サルヘカラス

第四百六十八條　陪審ハ証人又ハ被告人ニ問題ヲ付セン事ヲ上席人ニ願フヲ得然レ𪜈陪審ハ決シテ支件ニ付キ自己ノ意見ヲ説キ又ハ示ス可カラス

第四百六十九條　若シ一陪審辯論中其意見ヲ知ラシメタルニ於テハ検察官及ヒ被告人ハ其陪審ヲ退廷セシメン事ヲ願フヲ得院モ亦其職権ヲ以テ之ヲ命スルヲ得

若シ検察官又ハ被告人ノ請求ナクシテ引續キテ辯論ヲ為シタルトキハ該陪審ヲ置キ代ヘヲ言渡スニ及ハス

反對ノ場合ニ於テハ若シ第四百五十九條ニ依リ補員陪審ヲ召ヒタルニ於テハ之ヲシテ即時其陪審ニ代ラシムヘシ若シ補員陪審ヲ召ハサリシトキハ事件ヲ新陪審官ニ送付スヘシ但自己ノ意見ヲ言出シタル陪審ハ其中ニ加ユヘカラス若シ之ニ背クトキハ刑ノ言渡シハ無效トス

第四百七十條　不便ノ各訴人ノ供述ノ後チ上席人ハ被告人ニ此供述ニ付キ何ニカ意見アリヤ否ヤト問フヘシ

第四百七十一條　各訴人ハ其供述ノ後チ訴人ノ扣所ニ退クヘシ但上席人ヨリ之ニ退クヿヲ許サヽルトキハ格別ナリ

治罪法草案審査局

陪席裁判官陪審検察官被告人及ヒ民事被告人新ニ証人ヲ聞キ糺シ又ハ他ノ証人ト突キ合ハセンヿヲ願フヲ得

上席人ハ常ニ其職権ヲ以テ之ヲ命スルヲ得

第四百七十二條　上席人ハ若シ被告人ノ面前ニ於テ悖戻(シエモト)憎悪(エーヌ)又ハ憐憫(アワレミ)ヨリ供述ニ影響ヲ生スルヿアルヘシト思量スルトキハ其職権ヲ以テ又ハ検察官又ハ民事原告人ノ願ヒニ依リ証人供述ノ間被告人ヲ訟庭ヨリ退カシムルヿヲ命スルヿヲモ得

被告人ヲ再ヒ訟庭ニ入ラシムルトキハ上席人ハ被告人ニ對シ又ハ其利益ノタメ言ハレタル所ノヿヲ之ニ告知シ且被告人意見之レアルニ於テハ之ニ申立テシムヘシ

第四百七十三條　辯論中真實發見ノ為メ左モ便利ナルヘシト思量スル時ニ上席人ハ被告人ニ心証ノ物件ヲ示シ其物件ニ付キ被告人ニ辯解ヲナサシムヘシ

第四百七十四條　便利又ハ不便利ノ証據ヲ差出シタル後チ上席人ハ検察官其請求スル

所ヲ陳ヘシムヘシ

民事原告人モ亦害スラレタリト主張スル所ノ事件証明ノ為メ陳述ヲ為スヘシ

之ニ継テ被告人又ハ其辯護人公訴ニ対スル陳述ヲ為スヘシ

検察官民事原告人及ヒ被告人ハ互ニ再答スルヲ得

之ニ継テ上席人ハ被告人ニ其防禦ノ為メ何ニカ付ケ加ヘテ申スヘキ事アリヤ否ヤト問フヘシ

其後上席人ハ公訴ニ付キ辯論ノ終リタル旨ヲ陳フヘシ

第四百七十五條　一タヒ閉チタル本案ノ辯論ハ職権ヲ以テ又ハ検察官又ハ被告人ノ願ヒニ依リ左ノ原因ニ依リテ与ヘタル院ノ判決ニ依リ會議室内ニ陪審官ノ入ル前ニ非ラサレハ再ヒ開クヲ得

一　無效ノ刑ニテ記載シ又ハ防禦ノ利益ノ為メ記載シタル法式ノ遺漏ヲ補フトキ

二　大切ナル證人ニシテ遲延シテ出頭セシ

モノヲ聞キ糺ストキ

三　既ニ聞キ糺サレタル証人又ハ監定人其陳述ヲ変更セントスルトキ

四　被告人新供述ヲナサンヿヲ願フトキ

第四百七十六條　上席人ハ簡單ニ事件ヲ約言スヘシ

上席人ハ殊ニ被告人ニ対シ又ハ其便利ノ為メ差出シタル重要ノ証據ヲ指示セサルヘカラス

都ニ極メテ公平ニシテ其一己ノ意見ヲ知ラシムル事ナカルヘシ

其後陪審ニ告ルニ尚ホ其行フヘキ所ノ職務ノ性質及ヒ其為シタル所ノ誓ヲ以テスヘシ

第四百七十七條　陪審官ノ上席人ノ約述ノ後ハ其決議ノ申立迄ニハ離散スルヲ得ス之ニ違フトキハ刑ノ言渡アリタル場合ニハ其申立ヲ無效トス

故ニ若シ辯論終結ノ時刻既ニ晩キトキハ上席人ハ次キノ訟庭ニ送リテ其約述ヲ為シ及ヒ問題ヲ付スルヿヲ得

第四百七十八條　共約述ノ後上席人ハ送付ノ命令又ハ判決ニ之ニ載セタル主タル事件附帶ノ事件ニ加重ノ情状及ヒ肯怨ニ付キ各被告人ニ対シ陪審ノ決断スヘシ問題ヲ之ニ附スヘシ

此各事件ハ各別ニ問題ト為サヽルヘカラス

第四百七十九條　破法及ヒ多少之ヲ變更スルヲ得ヘキ情状ハ其法律上ノ名ニテ之ヲ指示セスシテ法ニテ之ヲ解釈シ又ハ定メタル通リ其構成ノ性質ニテ之ヲ指示スヘシ

第四百八十條　一般ニハ有形ノ事件ノ成立チ被告人ニ之ヲ擬抵スルヿ及ヒ被告人ノ無形ノ責任ニ當テハ各別ニ問題ヲ附スルヿナシ唯被告人ニ擬抵セシ事柄ニ付テ其罪スヘキモノアルヤ否ヤノ問題ヲ付スルヲ以テ足シリトス

然トモ若シ被告人ハ被告事件ノ成立チ及ヒ此事件ニ其立入リタルヿヲ全ク承認ルトキトモ法律ニテ許シタル辯解ノ原因ノ一又ハ其責任ヲ免カルヘキ他ノ情状申立テ

タルトキハ上席人ハ被告人ノ有形ノ支柄ノ
擬抵ニ管スル問題及ヒ解雇ノ原因人ハ責任
ナキヿニ管スル問題ヲ分ケテ付セサルヘカ
ラス

第四百八十一條　被告人ノ隨意ニ又ハ故意ヲ
以テ犯シタルヤ否ヤヲ知ルヲ問題ハ罪根ノ
問題中ニ暗ニ含ミタルモノナリトス然ト
モ破法構成ノ性質中ノ一トシテ法律ニ此
条件ノ明記スルトキハ一般ノ問題中ニ此問題ヲ
明示セサルヘカラス

被告人ノ別段ナル放意ニ依リ法ニテ刑罰ヲ
變換スルトキハ故意ニ管スル別段ノ問題ヲ
付スヘシ

第四百八十二條　若シ被告人十二歳ヨリ十六
歳マテノ幼者タルトキハ上席人ハ一般ノ問
題ニ被告人辨別ヲ以テ犯タル哉ノ問題ヲ付
添スヘシ

第四百八十三條　若シ重罪ノ大イサ人ノ民法
上ノ身分又ハ被告人若クハ被告人ノ身ニ於
ケル他ノ身分ニ管スル条件ニ依リ多少變換

スルヲ得ルトキハ上席人ハ此事項ニ付キ辯論中ニ出シタル証據ノ如何ナルニ拘ラス其別段ノ問題ヲナサヽルヘカラス

刑法書第百九条ニ定メタル場合ニ於テ再犯加重ノ情状又ハ官吏ノ身分ニ付テモ亦前項ニ同シ

第四百八十四條　期満免除ニ付テハ陪審官ハ重罪ヲ犯シタル時刻ニ付ニ疑ヒアリ又ハ異議アルトキニ非サレハ訊問セラレス此場合ニ於テハ重罪ハ少クトモ十年溯ホルモノヽ

治罪法草案審査局

ル哉ノ問題ヲ付スヘシ

第四百八十五條　控訴受理ニ對スル他ノ防禦方法ハ第三百五十六條及ヒ五百六条ニ照準シテ陪審官陳述ノ後チ院ニテ裁判セラル

第四百八十六條　送付ノ命令又ハ判決中ニ載セタル彈告ニ管スル問題ニ拘ラス右ノ場合ニ於テハ辯論ヨリ生スル別段ノ問題ヲ陪審ニ付スヘシ

一　破法ノ等級ニ拘ラス一箇又ハ數箇ノ附帶ノ破法又ハ彈告中ニ顯ハレサル一箇又

治罪法草案審査局

ハ數箇ノ加重ノ情状又ハ法律上ノ宥恕ノ顯ハシタルトキ

二　彈告ニ載セタル破法ノ溝成ノ性質被告人其破法同種類ニシテ重リ又ハ軽キ他ノ重罪ニ付キ罪スヘキモノナリト認メラルル程ニ雜論ニテ証明セラルルトキ

三　若シ彈告ニ仕損シ又ハ着手シタル重罪ニ載スルト雖トモ雜論ヨリシテ被告人ハ仕遂ケタル重罪ニ付キ罪スヘキモノタルヿノ生スルトキ又ハ彈告ニハ仕遂ケタル重罪ニ載スルト雖トモ雜論ヨリシテ被告人ハ仕損シ又ハ着手シタル重罪ニ付キ罪スヘキモノタルヿノ生スルトキ

四　彈告ニハ付從ノ事ヲ載スルト雖トモ雜論ヨリシテ被告人ハ正犯又ハ幾頭人タルヘキヿノ顯ハルルトキ又ハ彈告ニハ重罪ノ正犯又ハ幾頭人タルヿヲ載スルト雖トモ雜論ヨリシテ被告人ノ從犯タルヿノ顯ハルヽトキ

第四百八十七條　雜論ヨリ生スル問題ハ檢察

官又ハ被告人ノ願ヒニ依リテ之ヲ為スヘシ

上席人ノ辯論ヲ閉ルノ前其旨趣ヲ陳ヘ職権ヲ以テ之ヲ付スルヲ得

檢察官及ヒ被告人ハ彈告又ハ防禦ノタメ辯論ヲ開ルヿハ一日遲延セシヿヲ願フヿヲ得

又檢察官及ヒ被告人ハ新事件ニ付キ補欽ノ糺問ヲ願フヿヲ得

此場合ニ於テハ若シ院ニテ此糺問ヲ許ストキハ其事件ハ同日ノ訟庭次キノ訟庭ニテ他ノ陪審ニ之ヲ移サヽルヘカラス

第四百八十八条　辯論ヨリ生スル問題ヲ付スルモ上席人ハ送付書ニ本キタル問題ヲ付セサルヘカラス

然トモ第四百八十六条ニ定メタル場合ヒニ於テ主タル彈告ノ大イサノ辯論ニ循テ重ノ又ハ軽ク変セシトテハ尤モ被告人ニ不便ナル問題ヲ東初ニ付スヘシ其尤モ便ナルモノハ最初ノ問題ヲ否ト決シタル時ノミ決セラルヽ為メニ第二次ヒーテ即チ条件ニーテーニ非サレハ之ヲ付スヘカラス

此数ノ場合ニ於テ立席人ハ陪審ニ第二次ノ問題ノ条件ノ性質ヲ告知スヘシ

第四百八十九条　軽減ノ情状ノ成立ニ付テノ問題ハ陪審ニ付スヘカラス

然トモ立席人ハ総テノ問題ヲ付シタル後ヲ投票ノ多数ニ依リ一人又ハ数人ノ被告人ノタメニ軽減ノ情状アリト思量スルトキハ尤ノ通リニテ之ヲ陳述スヘキヿヲ陪審ニ告知セサルヘカラス「多数」ニテ全体ノ被告人又ハ其レノ被告人ノ為メ軽減ノ情状アリ」ト

若シ其告知ナクシテ陪審ハ被告人ヲ罪スヘキモノタルヲ認メテ軽減ノ情状ノ成立ツヲ陳述セサルトキハ無效ヲ引キ出スヘシ

第四百九十条　同席人ハ前二条ニ載セタル問題ト告知トヲ昏面ニ記シ而メ高声ニテ之ヲ読立ツヘシ

立席人ハ検察官又ハ被告人ハ問題ヲ許スヿニ付又ハ問題ヲ付シタル順序ニ付キ申立ツヘキ意見アリヤ否ト之ニ問フヘシ

若シ異議アルトキハ院ニテ判決スヘシ

第四百九十一条　若シ立席人辯論ヲ閉ツルノ前新問題ヲ付スヘキヿノ管係人ニ告知セサリシトキハ第四百八十七条ニ許ルシタル一日遲延シテ辯論ヲ再ヒ開クヿ及ヒ紀問ノ補缺ヲ願フヿヲ得

第四百九十二条　第四百九十条ニ循テ其場合ニ依リテハ返還セシ問題昏ニハ立席人昏記官手署シ而メ抽籤ニテ出タル第一ノ陪審ニ之ヲ渡スヘシ但シ訴訟書類ハ夫レテ之ヲ添ユヘカラス

陪審官ハ即時ニ其會議室ニ退クヘシ

第四百九十一条　陪審官ノ會議ノ間ハ訟庭ハ中止セラルヘシ院検察官及ヒ昏記官ハ各其室ニ退キ被告人ハ院ノ牢屋ニ連レ行クルヘシ

第四百九十四条　何レノ陪審モ陪審ノ應ヘノ前ハ會議室ヲ出ツルヲ得ス他人ハ何人ト雖トモ正当ノ原因ニ付キ立席人ノ許可ナキニ於テハ此ニ入ルヲ得ス

會議此時間停止セラルヘシ

此規則ニ脊キ刑ノ言渡シアリタル場合ニ於テハ総テ無效タルヘシ

第四百九十五条　會議中ニ於テ一名又ハ數名ノ陪審ハ一箇又ハ數箇ノ問題ノ意味ヲ分又ハ其權限ニ付必用ノ説明ヲ求ムルタメ其室ニ上席人ノ来ランヿヲ求ムルヲ得

検察官及ヒ辯護人ハ立合ハサルヘカラス

訟庭ヲ更ニ開キタルトキ上席人ハ其説明シタル条件ヲ詳述スヘシ

若シ説明ニ付キ検察官又ハ辯護人ヨリ異議ノ申立テタルトキハ院ニテ裁判スヘシ

第四百九十六条　抽籤ニ依テ出テタル第一ノ陪審ハ当然陪審官ノ長トナリ會議ニ上席スヘシ

其陪審辞退ノ場合ニ於テハ陪審ハ此職務ヲ充タス為メ投票ノ多數ニ依リ其中ノ他ノ一人ヲ撰ムヘシ

此変更ハ問題昏ニ記載シ訟庭ニ於テ之ヲ読ミ渡スヘシ

第四百九十七条　陪審ハ負擔及ヒ防禦方法ニ

ガキ之ヲ一処ニ及ヒ諸問題ヲ各別ニ陪審中
ニテ討論スルヲ得
陪審官長各箇ノ問題ヲ読ミ渡シタル後其各
問題ニ付キ投票ヲ為スヘシ
投票ハ秘密ニスヘシ然リト雖モ意外ノ原由
ニ依リ自身ニ筆記スル能ハサル陪審ハ他ノ
陪審ニ其票ヲ代書セシムヘシ
第四百九十八条　各陪審ハ単ニ可又ハ否ト記
シタル其票ヲ閉シタル函中ニ納ルヘシ
若シ一箇ノ問題ニ重罪ノ数個ノ事項ヲ載セ

而シテ其事項タル各別ナル構成ノ要件タラサ
ルキハ一名又ハ数名ノ陪審ハ此各要項ニ付
キ各別ニ投票セシムヘシ
局ノ答ハ其一要項ニハ可トナシ他ノ一要項
ニハ否トスルヲ得ヘシ
第四百九十九条　陪審官長ハ軽減ノ情状ノ陳
述ニ付テハ最終ニ投票セシムヘシ若シ数名
ノ被告人アルトキハ此要ニ付テハ各被告ニ
付各別ニ投票セシムヘシ
軽減ノ情状ハ少クトモ六箇ノ投票ヲ集ムル

トキニ非サレハ投票ノ記載ヲ為スヘカラス

第五百条　白紙票ハ被告人ノ便宜ニ算ヘ之ヤルヘシ若シ読ミ難ク曖昧又ハ不規則ナル票アリテ其投票ハ他ノ票ト共ニ要用ナル結果ヲ与ヘサルニ於テハ更ニ他ノ投票ヲ為スヘシ

其後尚ホ不十分ナル票ハ被告人ノ便宜ニ算ヘ込マルヘシ

第五百一条　被告人ニ不便ナル総テノ陳述ハ被告人ニ對シテ記載セラルヽニハ少クトモ

六箇ノ票ヲ集メサルヘカラス

投票半折スル場合ニ於テハ應ヘハ便宜ナルモノト見做サルヘシ但軽減ノ情状ニ管スル支ハ此限リニ非ラス

第五百二條　各問題ニ付テノ投票ハ陪審ノ面前ニテ陪審官長黙検スヘシ其結果ハ多数ニ依リ可又ハ否ノ語ヲ以テ又ハ「投票半折ス」ノ記載ニテ決シタル問題ノ畢ハリニハ陪審官長即時之ヲ告スヘシ

陪審官長総テノ投票ヲ記載シタルトキハ陪

審ニ之ヲ読ミ聞カセ而シテ問題書ニ日附ヲ
記シ及ヒ手署スヘシ
送達及ヒ塗抹ニハ陪審官長手署ニ代用スル
横線ヲ畫スヘシ
投票ノ票ハ即時ニ焼クヘシ
第五百三条　陪審ハ其會議ヲ畢ハリタル旨ヲ
上席人ニ告知セシ後チ再ヒ訟庭ニ入リ其席
ニ就クヘシ
第五百四条　上席人ハ陪審官長ニ陪審ノ會議
ヲ知ラシメンヿヲ告クヘシ

法學部審査

第五百五条　裁判長ハ申立書ヲ書記ト共ニ検
認シ次キニ被告ノ引致ヲ命令ス可シ而シテ
書記ハ被告ニ陪審ノ申立書ヲ讀聞スヘシ
第五百六条　若シ被告一箇又ハ数箇ノ問題ニ
付テ有罪ト申立ラレタルトキハ検察官ハ法律
ノ適用ニ付キ意言スヘシ
被告人又ハ辯護人ハ其支實検察官ヨリ請求
セラレタル刑ヲ以テ罰セラレサルヿヲ主張
スルヲ得
又其事實何等ノ刑ヲ以テモ罰セラレズ若シ

法學部審査

ハ第三百十七条及ヒ第三百五十六條ニ云フ
如ク凡テノ他ノ公訴不受理ノ理由ニ依テ掩
ハレタルヿヲモ主張スルヲ得可シ
（フハンドノニハリハール）
検察官被告又ハ其辯護人共ニ陪審ノ申立ニ
反スル申立ノ主張スルヲ得ス
（アルカヒヨン）
第五百七条　次キニ民支原告人ハ損害ノ償額
要求ノ訴ヲ證明スルカ為メ爰言ス可シ被告
又ハ其辯護人及ヒ民事ノ責ヲ負擔ス可キ者
ハ答辯スルヲ得
検察官ハ其論決ヲ奬ヲ可シ

但シ院ハ第三百五十七條ニ云フ如ク民事ノ
訴ノ審査ヲ分離スルヲ得但シ閉廷前之ヲ判
決ス可シ
第五百八条　若シ裁判言渡シノ前院ニ於テ陪
審申立ノ不充分又ハ二義ニ解ス可ク又ハ矛
盾スルヿノ認知シタルキハ或ハ職權ヲ以テ
シ或ハ検察官又ハ被告ノ請求ニ依リ陪審官
其申立ヲ補充シ之ヲ確定シ若クハ之ヲ改正
スルカ為メ會議室ニ退クヿヲ命令ス可シ
若シ法式ニ不規則ノヿアルキ亦之ニ同シ

然レトモ申立昏ノ日附及ヒ陪審ノ署名ハ訟廷ニ於テ之ヲ記入スルヲ得可シ

第五百九條　若シ陪審已レニ分セラレサルカ又ハ其扶助ノモノタルニ因リ主タル申立ノ后ハ既ニ問題タラザル所ノ支點ニ付テ申立ヲ為シタルトキハ其申立ノ無効ト看做サルヽヿヲ言渡ス可シ

第五百十条　更ラニ評議スル為メ陪審ヲ退廷セシメタル所ノ言渡昏ニハ其申立ノ瑕瑾ヲ記録ス可シ

陪審長ハ起立シテ左ノコトク陳述スヘシ「日々余ノ名譽及ヒ余ノ良心ニ循ヒ陪審官ノ陳述ハ第一ノ問題等ニ付テハ左ノコトシ」

其後テ陪審官長ハ問題ノ分セラレタル順序ニ循テ其各問題ニ付陪審ノ為シタル應ヘト共ニ総テノ問題ヲ讀ムヘシ

若シ其場合アルニ於テハ軽減ノ情状ヲ畢ハリニ讀ムヘシ

第五百十一条　裁判長ハ不規則ナル問題ヲ付シタルニ非ルヨリハ既ニ付シタル問題ニ於テ何等ノ変更ヲモ為スヲ得ス又送付重罪取調局ヨリノ命令書ニ依リ起サレタル一切ノ問題ノ下付セラレサリシキノ外新タニ問題ヲ下スヲ得ス

申立書ヲ朗讀ハ前ニ制定セラレタル法式ニ循ヒ其全部ヲ再ヒ為ス可シ

第五百十二条　若シ被告有罪ト申立ラレタルキハ院ハ法律ニ循ヒ刑ヲ適用シ又ハ第三百

治罪法草案審査局

五十四条ノ定メタル場合ニ於テハ不論罪ノ言渡ヲ為ス可シ

第五百十三条　假令被告ハ第四百八十六条第二項ニ依リ法律上軽罪ト定メタル一箇ノ夏實ニ付テノミ罪アリト申立ラレタルモ加等又ハ減等ノ情状又ハ宥恕ノ申立ハ陪審ノ権ニ属ス可シ

第五百十四条　院ハ前ニ云フ如ク即時又ハ評議ノ為メ會議室ニ退キタル后チ裁判ス可シ又其裁判言渡ハ遅クモ次順ノ閉廷ニ付スル

ヲ得

第五百十五條　若シ被告凡テノ問題ニ付キ無罪ト申立ラレタルトキハ院ハ其無罪ノ言渡ヲ為シ且他ノ支由ノ為メ勾囚セラレサルトキハ直チニ放免ヲ命ス可シ

院ハ次キニ相互ニ申立ル所ノ損害ノ償額ニ付キ裁決ス可シ

第五百十六条　被告人刑ノ言渡ヲ受ケ又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキ若シ其辨論中ニ證人ノ供述又ハ院ノ訴ヲ受クル重罪ニ所帯セザ

他ノ重罪又ハ軽罪ノ犯タラント見ユル
所ノ他ノ證據出テ且検察官其変實ニ由リ起
訴ヲ請求スルトキハ院ハ通常ノ法式ニ於テ糺
問セラルヽカ為メ訓列状又ハ訓留状ヲ以テ
管轄ノ糺問裁判官ノ面前ニ送付セラルヽヿヲ
命令ス可シ

第五百十七条　凡テ本訴ノ管係人ハ下ノ第四
篇第一章ノ條規ト區別ニ從ヒ重罪裁判所ノ
對理裁判ニ對シテ上告スルヿヲ得
上告ノ期限ハ裁判言渡ノ日ヨリ五日ナル可
シ

第五百十八條　被告ノ全數又ハ一部ノ出席セ
シ所ノ裁判言渡ノ後院ハ陪審ノ臨席ナクシ
テ被告人ノ全數欠席セシ所ノ事件ノ裁判言
渡ヲ行フ可シ但シ欠席シタル被告人ニ對シ
第二百五十四條二定メタル法式ヲ履行セシ
キニ限ル

第五百十九條　欠席シタル被告人ハ弁護人ヲ
有スルヲ得ス
其親族又ハ朋友ノミ被告ノ遠隔セシヿ又ハ

裁判所ニ出ルヿ能ハサリシヿノ證明ヲ為スヿヲ許サル可シ

若シ此證明ヲ可認セラル、ハ院ハ檢察官ノ論決ノ上裁判ノ中止又ハ後ノ會審廷ニ送付ノ命令ヲ為ス可シ

又院ハ前項中止ノ間財産ノ差押ヲ免ルスヲ得可シ

第五百二十條　出席妨碍ノ正當ノ事由ノ證明ナキニ於テハ院ハ書記ヨリ送付ノ命令論告狀及檢察官ヨリ喚起サレタル豫審ノ書類朗讀ノ上ニテ裁判ニ取掛ル可シ

裁判長ハ又職權ヲ以テ其他裁判所ヲシテ事實ヲ明白ナラシム可キ性質アリト信スル所ノ豫審書類ノ朗讀ヲ命スルヲ得可シ

第五百二十一條　檢察官ハ犯罪ノ存在及ヒ法律ノ適用ニ付キ其論決ヲ與フ可シ

民事原告人ハ損害ヲ證スルカ為メ發言ス可シ

出席シタル民事ノ責ヲ負フ可キ者ハ民事原告人ノ論決ヲ攻擊スルヲ得ルノミナラス又

罪アリトスル事實ヲ檢證スルヲ得但シ其責任ノ目的タル點ノミニ止ル可シ

檢察官ハ民事ノ訴ニ付キ其論決ヲ與フ可シ

第五百二十二條　若シ豫審不規則ナリシキハ院ハ之ヲ取消シ且ツ最モ以前ノ不規則ナル事為ヨリ爲シ始メラル可キヿヲ命令シ且ツ他ノ一個ノ裁判官ニヨリ豫審セラルヽカ爲メ管轄ノ裁判所ヘ其事件ヲ送付ス可シ

又院ハ其指示スル所諸點ニ付キ豫審ノ補流ヲ命スルヿヲ得可シ

第五百二十三條　若シ豫審法律ニ適シ且ツ其罪責被告人ニ對シ何等ノ等級ヲ論セス一箇ノ犯罪ヲ證スルキハ院ハ刑法ノ条規ヲ適施ス可シ

院ハ被告人ノ利益ノ為メ法定ノ宥恕又減等情狀ノ存在スルヿヲ認ムルヿヲ得可シ

院ハ第三百五十五條及ヒ第三百五十六條ニ定メタル場合ニ於テ免許又ハ無罪ノ言渡ヲ為ス可シ

院ハ同時ニ被害ヨリ請求セラレタル賠償ニ

付キ裁判スル可シ

第五百二十四條　重罪ノ刑ノ言渡ノ場合ニ於テハ院ハ其刑ヲ言渡サレタル者ノ財産ハ第二百五十四條ニ循ヒ其儘差押フルヽヲ命令ス可シ

費用損害ノ償及ヒ罰金言渡ノ執行ハ財産ノ差押ニ對シテ「プルシユ井」未定セラル可シ

第五百二十五條　若シ重罪審院被告人ニ對シ輕罪ノ刑ノ外言渡サヽルヽ片ハ財産ノ差押ヲ免ス可シ

裁判言渡ハ第四百十五條ニ定メタル場合ニ於テ刑ノ期滿免除ニ至ル迄同上ノ院ニ於テ故障ヲ受ク可キモノトス

第五百二十六條　欠席裁判ノ刑ノ言渡シニ對スル上告ハ檢察官ノ外之ヲ爲スヲ得ス

民事原告人及ヒ民事上ノ責ヲ負フ可キ者ノ為ス其論決ヲ裁決スル所ノ部分ニ對シテ上告スルヽヲ得可シ

第五百二十七條　若シ同罪ノ被告人ノ間ニ於テ一ハ出席シ他ハ欠席シタル片ハ第一ノ者

ニ對シテハ通常ノ法式ニ循ヒ欠席シタル被告ニ對シテハ前ニ定ムル所ノ法式ニ従ヒ取扱ハル可シ

同一ノ裁判言渡ハ諸人ニ對シテ裁決ス可シ

第五百二十八條　若シ重罪ノ刑ノ言渡ヲ受タル欠席シタル被告刑ノ期滿免除ノ時ノ畢ハラサル前自カラ出頭シ自カラ拘捕ニ就ク件ハ民事及ヒ民事ノ言渡ハ當然無効トナリ且財産ノ差押ヲ免サル可シ

第五百二十九條　論告狀及ヒ送付ノ命令ハ新